

8 章 トライデント・プラウシェアズとマスコミ報道

8.1 メディアにおける論争

メディアにおける論争には 2 つの面がある。普段の会話から推定すると、英国の大多数の人々は、トライデントに反対する強力な首尾一貫した直接行動によるキャンペーンが、今あるということを全く知らない。たぶん、大多数の人たちは、英国の核兵器に反対するいわゆるデモ行進が時々あるということは何となく知っているかもしれない。けれど、それ以上のもではない。もう一つ興味深い点は、この人たちに、このキャンペーンと成果を話すと、彼らはこのキャンペーンはもはやニュースになっていないと驚くことだ。このことから受ける全体的な印象は、大多数の人々は、実際、一般的に良い記事とは何なのかが分かっていないということである。

一方、英国の主要なメディアで働く人に接すると、たぶん、彼らはこのキャンペーンとその目的に気づきつつある、と分かるだろう。最新の集計によると、一回もしくはそれ以上、私達のことを取り上げてきた出版物や放送発信元は、世界中で 200 近くある。それらについてはすでにチェック済みだが、そのような発信元の幅は興味深い。発信元のリストには、スウェーデンのグリーンユース党のニセフルト (Nisse Hult) やニューヨークの BLU マガジンや、フリーコミュニティ ラジオ メルボルンのような個性に富んだ多くの新しい発信元ばかりでなく、日本の朝日新聞やニューヨークタイムズ紙やフィガロ紙のような世界的な地位のある新聞も含まれている。このような発信元の多くで私達は繰り返し取材を受けた。そして、それは特に地元のメディアでは顕著で、その中で特定の誓約人やアフィニティグループが取材され続けた。ロジャー・フランクリン (Roger Franklin) はプレス紙の中の有名な人物であり、ミッドランド、ラフバラ (Loughborough) のマーリーン・ヨー (Midlander Marlene Yeo) やノースアンバーランド (Northumberland) のジョーン・メレディス (Joan Meredith) も同様である。取材の内容は非常に多様である。徹底的に悪意を持った報道は少ないものの、タブロイド紙はいうまでもなく一般紙でも断面的で不十分、不正確で、全くの誤解を招くような記事は日常茶飯事だ。最初の頃の悪意を持った記事は 2000 年 8 月 19 日発行のデイリー・エクスプレス紙のマンガで、みんなが良く知っているあの「古臭

いアジェンダを引きずった古臭いヒッピー」という誤ったイメージを押しつけている。グリーンノック裁判の余波のすぐ後には、スコットランドの一般紙には予想通りの反響が寄せられ、各紙は敵意をもった論説を載せた。ヘラルド紙は「この愚かな裁判」と述べ、1999 年 10 月 22 日発行のスコットマン紙は「理想主義的破壊者」とか、ギムブレット (Gimblett) の「混乱した考え」などと述べた。たまたまスコットマン紙の論説が大きな反響を呼び、この裁判について多くの投書が殺到したが、その大部分は強くトライデント III (アンジー・ゼルダー、ウラ・ローダー、エレン・モクスレイ) を支持したものであった。ウィタリング英国空軍における「ジュビリー・ツー・アクション (Jubilee Two Action : 聖なる年の二人)」についての 2000 年 11 月 22 日発行のガーディアン紙の報道は、一連の報道の中のものでもいいかげんな記事の最たるものだ。「聖職者が英国空軍への不法侵入罪で告訴された。」という見出しの次に、こう書いてある。

「伝えられるところによると、一人の聖職者とカトリック奉仕者がピーターバラ (Peterborough) にあるウィタリング英国空軍の核弾頭保管区域にいるのを見つけられ、その後安全調査が行われた。一人は、東ロンドンのカニングタウン (Canning Town) のマルティン・ニューウェル (Martin Newell), 33 才、もう一人はスーザン・ヴァン・デル・ハイジェン (Susan van der Hijden), 31 才で、不法侵入の罪で拘留中である。」

私達の行動についての背景説明も、詳細も理解もない。かなりましな記事の一つは、1999 年 10 月 24 日付スコットランドサンデー紙のジョン・ルロイド (John Lloyd) の記事で、こう言ってる。

「トライデント III と必然的に起こるギムブレット判決の再審理は、私達が子供たちにとって危険なものにしてしまったこの世界について私達にもう一度考えるよう促した。三人の母親がそれをやり、四人目が彼らを逃した。心ある人はだれもがこう言うだろう。でかした！と。私達も無関心ではられない」

2000 年 8 月 10 日発行のヘラルド紙のルツ・ウィッシュャルト (Ruth Wishart) の「発言は爆弾より大きく

響く」という記事は、このキャンペーンの本質と中心となる論争に理解を示し、次のような賛辞を呈している。

「この一週間、人が人にする非人道的な行為が増えている中で、私はトライデント・プラウシェアズの人たちが地球上の誰よりもまともであるかもしれないと思った。」

サンデー・ヘラルド紙のステイブン・ネイスミス (Stephen Naysmith) は、私たちの記事をスコットランドの「ビッグ・イシュー」の中で初めから報道していて、メイタイムの記事を当初からずっと報道しているただ一人のジャーナリストである。その彼は2000年8月13日付サンデー・ヘラルド紙で、グリーノック裁判の後、未だにこのキャンペーンが「スコットランドの法体制に与え続けている」衝撃波に言及し、私達のアクションの多様性をよくとらえて記事にしている。

次のような妥当な放送番組もある。カトリ・シルボネン (Katri Silvonen) とハンナ・ジャルビネン (Hanna Jarvinen) についてのフィンランド YLE テレビ局の30分のテレビ番組である。そこでは、このキャンペーンの中での彼女たちの個人的な動機が十分に述べられている。また、メイタイムとグリーノックでのウラ・ローダー (Ulla Roder) の役割についての主要テレビ局、デンマークテレビ局による取材もある。また、ラジオ・フォーの「行動における法」のいくつかの短い番組や、2000年1月14日放送の同じネットワークの「ワールド1時」のマギー・チャーンレー (Maggie Charnley) の実況インタビューなど、いくつかの良いラジオ番組もある。

これらの記事の全体像は、私達のことを十分知っていて支持している人々（増えつつはあるが、依然と

1999年10月22日付 ザ・スコッツマン紙『核兵器違法の判決 法廷に広がるどよめき』

2000年6月1日付 レスター・マーキュリー紙

「誓約：反核活動家はフェンスの損害の請求は支払わない。69才のおばあちゃん、刑務所に入る覚悟」

して少数派である) 以外にとっては、私達の社会的なイメージを要約するには複雑すぎるし、検証が断片的すぎる。私達の話聞いて欲しい聴衆という点でも、その分野は様々である。例えば一般大衆(どのような意味でも)、平和運動家、オピニオンリーダー、意志決定者、警察、法律専門家、芸術・芸能界・実業界の人々や、社会的公正や環境維持のために運動に関わるすべての人々などが挙げられる。

8.2 メディア対策

これを書いている時点ですでに、私達のキャンペーンはメディア対策に関する豊富な経験と強力なスキルを持っている。多くの人々はこの運動に参加した時、すでにこのような経験を持っており、その他の人も最近 2 年間でそのスキルを向上させてきた。このことは、2000 年 8 月の非武器化キャンプの時に、30 人もの様々な活動家がメディアチームで働き、その多数が直接メディアと接触し、インタビューを受けた経験があるということからも分かる。このメディアとのかかわり合いの広さは、アフィニティ・グループに基盤を置くキャンペーンの中で大きな意味を持つ。

理想を言えば、ほとんどのメディア対策はアフィニティ・グループの段階で行われ、それがグループの行動計画全体の中に含まれることであろう。グループ内でメディア対策の担当者を 1 人決めるのも理にかなったやり方である。以上のことは、次のことを

含む。

- ・地方のメディアや関連のある全国規模のメディアとの接触を発展させること。
それは、メディアのリストを作るという点と、ある特定の記者との関係を作り上げるという点の両方においてである。
- ・プレスリリースのためにトライデント・プラウシエアズが承認できるような標準的フォーマットを準備しておくこと。
- ・引用文に加えて、情報や関係している人についての詳細を収集しておくこと。
- ・時期を見計らって、事前に情報を公表すること。
- ・(地方によってそれぞれ違う締切時間にしかるべき配慮をして)、すみやかに記事を送ること。そして確認の電話をしてフォローすること。
- ・(もし適切であれば、)撮影関係者や写真家だけでなく、報道記者も私達のイベントの取材にきてもらうようにすること。

2000 年 8 月 8 日ヘラルド紙

『活動家達は裁判所の中で素晴らしい(fine:罰金)日々を送っている』

- ・いつでも電話に出られるような状態にしておくこと。(または、伝言にはすみやかに答えること。)
 - ・何が私たちの考えをうまく表現できるか考えておくこと：横断幕やプラカード、アクション自体が持つ表現の可能性を考えておくこと。
- メディアが使うためと、内部で使うために、私達自身の写真やビデオを撮っておくこと。
- ・求められた時のために、もう少し、詳しい発表の一揃えを用意しておくこと。
 - ・地方のメディアにニュースだけでなく、もう少し幅を広げた特集番組の対象として関心を持たせること。
 - ・メディアの取材範囲を監視し、記録をとること。

記者への確認の電話は面倒だが、少なくとも最初の過程では必要な仕事である。記者との関係が育つに従って、記事になるような話を求めて来る記者も出てくるようになる。時にはアクションを促しているように見えることさえある！一つの活動グループとして、あまりにも多くの記者が興味本位に「おばあちゃんが抗議」などと書く傾向に対して、またそう書かれた個人がどれだけ我慢しなければならないか、について議論を尽くさなくてはいけない。上記のすべてのことは、単に完全を期するための忠告であり、次のような現実—普通の人間として、仕事に行く、寝る、家族のことや社会的なことなどで忙しいというようにいらだたしいが必要な事柄—に対しては柔軟に対応すること。

地方のメディアの価値をどのように高く評価してもしすぎるということはない。一つには、一貫した報道は全国レベルより地方レベルのほうがより達成可能に見えるし、地方の発信者は幅広い一定の読者層を持っているからである。全国的メディアは地方の発信者から記事をもらう機会もある。このことは、放送網の場合より明らかだが、新聞にもあてはまる。それはジョーン・メレディス(Joan Meredith)が2000年8月に15分間の名声を得たあの方法が証拠としてあげられている。その時はたかさんの日刊新聞がジョーン・メレディスの写真—グラウンド・ゼロ(爆心地)のTシャツごと—を「彼女が100ポンドの罰

金を払わなかったために一日アルンウィック(Alnwick)の裁判所に拘留された(次頁参照)、という記事と並べて載せた。地方の発信者は広範囲の引用や発表などという点で、私達のことをより記事に書いたり放送したりしそうに見える。良い例は、クラックマンナンシャイア(Clackmannanshire)のザ・ウィー(Wee)・カウンティ・ニューズ紙の法務総裁の事件付託の記事で、それはエレン・モクスレイ(Ellen Moxley)との地域的な関係で、他のどの記事よりも法務総裁の付託のことを専門的に書いている。

同じ原則は、「最大の非武器化」イベントのためのメディア対策にも当てはまる。大きな違いは、「活動家たちは比較的短期間のうちに独房に入れられるだろう」ということを考慮して、準備がより完全になされなければならないということである。前もって準備する文書や資料の提供には、行動に対する理論的根拠と一緒に、活動家たちの声明を入れるべきである。関連して、イベントを催した背景の情報や、手短な人物の説明や写真も入れるべきである。(フェザンツ・ユニオン[Pheasants Union]のケースでは前もって準備された写真はイベント後、一年以上たってもまだ探し求められていた。)もし、拘留中の場合は、特に当局が記者の質問に答えて間違った情報を出すことも考えられるので、活動家は出来るだけ早く自分自身で正しい内容のものを書いて送るべきである。情報担当者が逮捕された場合のことを考えて、予備の情報を整備しておくこと。それは十分起こりうることである。もし、拘留が長びく場合は拘留所への支援とメディアへの支援がうまく連携するように気をつけること。特にスコットランドでは、記事の内容について不安を覚える記者や編集者は、次のような弁解をするかもしれない。その弁解とは、活動家たちは告訴されていて、従って事件は審理中なので、裁判に偏見を持たせる可能性のある記事は公表しないというものである。このようなケースでは、事件の事実を否定しないし、記事を書く記者に対しても何の反対行動も取らないという活動家たちからの声明は、報道側にとってはありがたいものだろう。

このキャンペーンで私達は全般的にメディアと調整を計るチームを持つことが有効であるということもわかった。このチームではメディア状況を全体的に把握し、プレスリリースの大部分を行い、メディアの報道をチェックし、記録する。また非武器化キャンペーンや他の大きなイベントにおいて、メディア対策

(前頁)

2000年8月13日 スコッティッシュ・サンデー・ヘラルド紙

『逮捕から賞賛へ…どのようにプラウシェアの人たちは国民的人気の反核活動家になったか。』

の調整をする。そしてアフィニティ・グループや最大の非武器化グループに次のことを提供する。

1. 定期的に改訂されるメディアとの連絡リスト。
このリストは、主要なメディアのリスト、主要関連リスト（オルダーマストーン核兵器保管施設など）や E メールリスト（今後、主に使用される新しい連絡方法）を含んでいる。これを書いている時点でジャーナリスト達はEメールを使用し始めており、今後Eメールによってさらにコミュニケーションが容易になるだろう。
2. 標準的なプレスリリース用のフォーマット。
もちろんアフィニティ・グループには、それぞれの好ましいフォーマットがあるだろう。それはそれで結構なのだが、少なくとも情報サイトを参照し、トライデント・ブラウシェアズのアフィニティ・グループであることを明確にしたものでなければならない。
3. もし、地域のグループが発足後間もなかったり、メディア対策のための資源や手段が不足している場合の援助。
これには、地域メディアのリスト作成やメディアとのコンタクトを深める手助け、記事の発送、精査した写真の発送が含まれる。
4. 全ての要素が網羅されているかどうか確認するためのプレスリリースのチェックリスト。

逆にこのメディア対策チームは次の事柄を必要とする。

1. アクション、特に最大の非武器化行動を起こす時

はできるだけ早く通知すること。その結果、私達はメディアの質問に対して論理的に、賢明に答えることができる。

2. 発送されたプレスリリースのコピー(加えて、ウェブサイトに載せるためにマーク・リーチ (Mark Leach) へのコピー送付)。
3. メディアの記録保管用の地方の取材記事のコピー。
4. メディア対策チームに全体的に採用されるような、地域で生まれた有効なアイデアや経験。たとえばうまく機能するファックスのソフトウェアのような実際的なものや、メディアと接触するための資源など。うまくいったこと、いかなかったこと、成功例、失敗例など知らせてください！

連絡先

デイビッドマン・マッケンジー(David Mackenzie)
01324 880744 (07775711054)
davidmc@enterprise.net

ジェイン・タレンツ(Jane Tallents) 01436 679194
tp2000@gn.apc.org

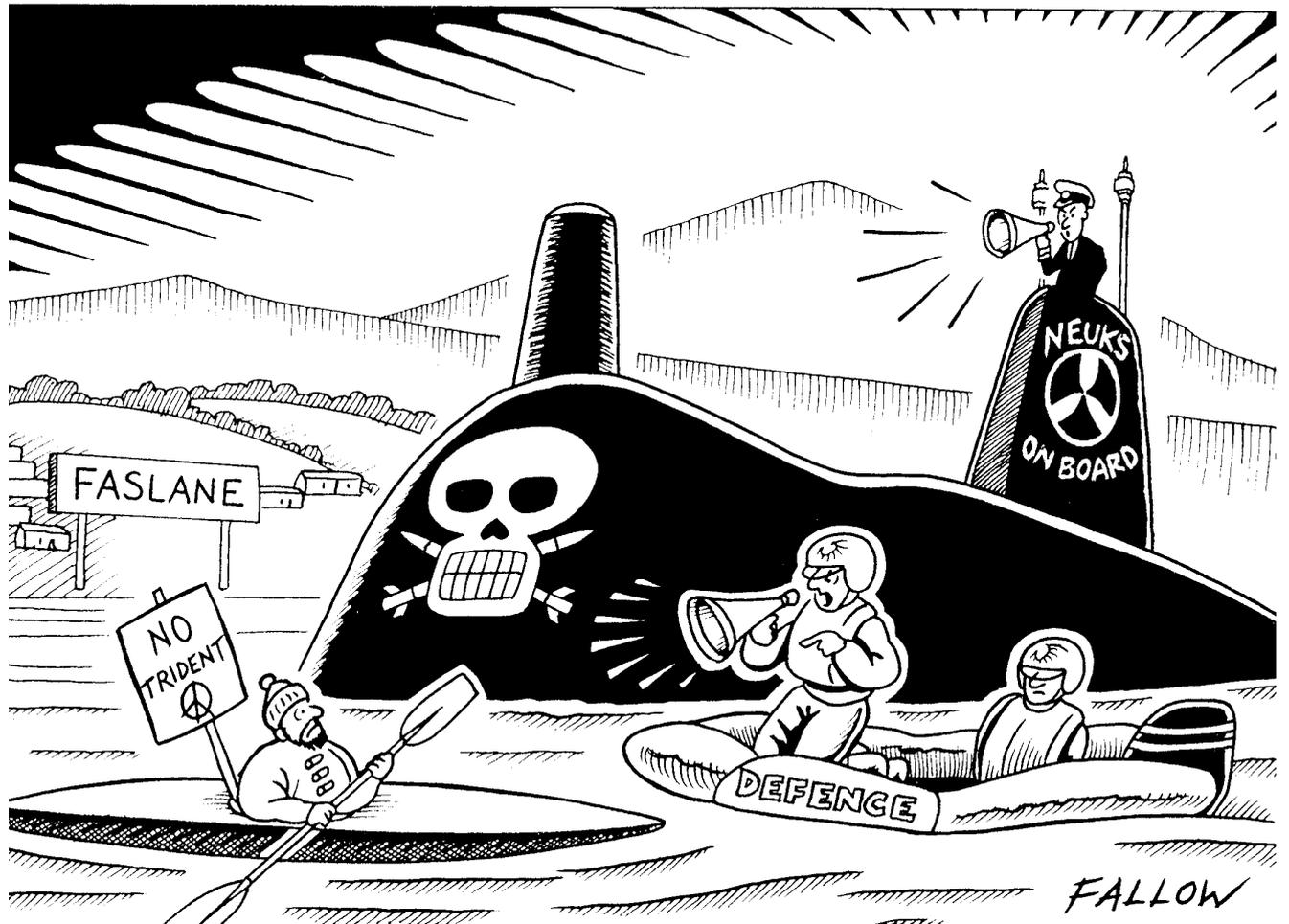
マーク・リーチ(Mark Leach) 0131 664 8441
r.wensum@virgin.net

参考文献と謝辞

すべての新聞報道と写真の記録はこの章を書いたデイビッド・マッケンジー(David Mackenzie)によって保管されている。

9 章 ガイドライン、および必要書類

宣誓書等を希望する方はコア・グループ又はTP 本部までご連絡ください。



"Are you trying to get yourself killed?"



9.1 核の犯罪を阻止するための誓約書



英国は 1968 年に核拡散防止条約に署名しました。その第 6 条は、加盟各国が「早期に核軍備競争を停止し、核兵器を廃絶するために効果的な措置をとり、厳重かつ効果的な国際管理のもとで全面的かつ完全な軍備縮小に関する条約について誠実に交渉を行うことを約束する」とはっきりうたっています。それから 30 年が経過した今もなお、英国は核兵器を配備し、NATO は三大核保有国を含む核の軍事同盟であり続けています。トライデント・システムは、英国の核戦略の拡張で、これまでのポラリス・システムの 3 倍の射程距離を持ち、はるかに命中精度が高く、8 倍の攻撃能力を持つものです。

また、1996 年 7 月 8 日には国際司法裁判所（国連の最高司法機関）のモハメッド・ベジャウィ所長は「核兵器は究極の悪であり、人道法に違反している。それゆえに、核兵器の存在はまさに人道法への挑戦であり、生命を育む人間の環境に長期にわたって影響を与えることは言うまでもない」と明確に表明しました。国際司法裁判所は、サンクト・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ニュルンベルグ原則、ジュネーブ条約、ジェノサイド禁止協定は、すべて核兵器に適用されることを確認しました。国際司法裁判所は、核兵器による威嚇やその使用の合法性を認めることができませんでした。

私は、トライデント核兵器システムは、違法で、危険で、不正であり、汚染をもたらし、恐るべき廃棄物の源であり、そして根本的に道徳に違反すると信じます。私は、トライデントは防衛よりも脅威をもたらすと考えます。

核兵器に関する法律を支持し、ニュルンベルグ原則の下で人道法を犯すあらゆる核兵器システムを注意深く、安全かつ平和裏に廃絶することは、私達全ての市民の義務です。また、英国や NATO を含む各国の国内法は、深刻な犯罪を阻止するためという信念に基づいて行われた場合は、物品に大きな損害を与えることも認めています。私は、トライデント・プラウシェアズの活動家たちは、現存の英国のトライデント・システムによる人道法違反の犯罪を阻止しようとしていると信じます。

国際的、国民的、および個人としての責任を持つ地球市民として、私は英国の核兵器システムを平和的に、安全に、オープンに、そして責任を持って撤廃させるよう努力していきます。私は、トライデント・プラウシェアズのほかの仲間と共にこの行動に参加します。英国政府がトライデント・システムの完全廃絶を確約するまで、私達はファスレーン、クールポート、および他のトライデント関連施設に入り、または他のメンバーが入るのに協力し、命あるものに対して威嚇や危害を加える目的で使用できなくなるよう核兵器システムを解体することを宣誓します。

私達の非武器化行動は、すでに承認されている国際法の原則に基づき、現在進行中の犯罪行為を阻止しようとするものです。

私は、行動するにあたって、いかなる生命にも危害を加えず、常に穏やかに平和的にふるまうことを誓います。

署名： _____

日付： _____

住所、氏名（楷書ではっきりと）：

誓約書に記入が済み次第下記までお送りください：

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel Street, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.2 非暴力と安全のための誓約書



- 1 私は、 _____アフィニティ・グループのメンバーで、核の犯罪を阻止するための誓約書に署名し、トライデント・プラウシェアズに登録し、2 日間の非暴力と安全に関するワークショップに参加しました。
- 2 私は、誰に対しても身体的暴力や暴言を用いず、いかなる武器も携帯しません。
- 3 私は、医薬目的以外には、いかなるアルコールやドラッグの使用や持ち込みをいたしません。
- 4 私は、行動に関するすべての取り決めに尊重します。
- 5 私は、常に安全に行動し、私を含めたすべての生命に危害を加えることのないよう責任を持って行動します。

署名： _____ 日付： _____

住所、氏名（楷書ではっきりと）：

誓約書に記入が済み次第下記までお送りください：

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel Street, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.3 非暴力と安全に関するワークショップ申込書



私はトライデント・プラウシェアズのハンドブックを読みました。私達のアフィニティ・グループは TP 行動に備えて非暴力に関する研修を希望します。(アフィニティ・グループに所属していない方はその旨お知らせください。こちらで適当なグループを探します)

氏名		
住所 郵便番号		
電話番号	FAX	E-MAIL
アフィニティ・グループ名		
アフィニティ・グループのメンバー (アフィニティ・グループに属していない方はその旨書いてください)		
アフィニティ・グループとして活動を始めてどれくらい経ちますか？		
ワークショップ希望地	地域	
希望日：	1. 2. 3. (ワークショップは1日目の夜から始めて通常2日間です)	

署名 (アフィニティ・グループを代表して)	日付
--------------------------	----

以下をよく読んで控えをとってからお送りください：

- ・ ワークショップは通常2つ以上のアフィニティ・グループが参加して行われます。
- ・ アフィニティ・グループのメンバー全員が2日間参加しなくてはなりません。
- ・ できるだけご希望の日時と場所に沿うようにいたしますがご希望通りに行かない場合もあります。
- ・ 部屋や飲み物などは参加者の方で用意してください。
- ・ ワークショップにはファシリテーター(調整役)が2人付きますが、交通手段の手配、宿泊などの準備にご協力をお願いします。
- ・ ワークショップの費用(部屋の借り賃を含む)は参加者の負担となります。ファシリテーター2名は無償です。資金や会場などに関してはコア・グループが相談に応じます。

アフィニティ・グループ全員が以下の質問に答えてください。ワークショップを準備する際の参考にいたします。

これまでどのようなキャンペーンに関わってきましたか？

(メンバー全員が印を付けてください)

核兵器	<input type="checkbox"/>	武器取引	<input type="checkbox"/>	人権	<input type="checkbox"/>	動物の権利保護	<input type="checkbox"/>
核燃料	<input type="checkbox"/>	教育	<input type="checkbox"/>	公正取引	<input type="checkbox"/>	公民権運動	<input type="checkbox"/>
ホームレス	<input type="checkbox"/>	交通	<input type="checkbox"/>	労働組合問題	<input type="checkbox"/>	人頭税	<input type="checkbox"/>
失業	<input type="checkbox"/>	生物多様性	<input type="checkbox"/>	刑務所改革	<input type="checkbox"/>	医療保険	<input type="checkbox"/>
遺伝子工学	<input type="checkbox"/>	代替経済学	<input type="checkbox"/>	その他 (具体的に)	<input type="checkbox"/>	_____	
多国籍企業	<input type="checkbox"/>						

キャンペーンの経験年数は：

(メンバー全員が1人1回印を付けてください)

経験なし	0-2年	2-5年
5-10年	10-20年	20年以上

これまでどのような形で運動に参加してきましたか？(例：集会、デモ行進、手紙、ニューズレター、子どもの世話、お茶の用意、など)メンバー全員が答えてください。

直接行動の経験者は何人いますか？

それはいつ、どこで？

アフィニティ・グループの一員として直接行動に参加したことがあるのは何人ですか？

このアフィニティ・グループの一員として直接行動に参加したことがあるのは何人ですか？

これまでに非暴力に関する研修を受けたことのある方は何人ですか？(規模は問わない)

記入した申込書は下記までお送りください：

Alison Crane, 36 Yelverton Ave, Weeping Cross, Stafford, ST17 OHE. ENGLAND.

Tel: 01785 611768

email: alison.crane@ntlworld.com

- ・ 結果はすぐにお知らせします。
- ・ ワークショップのファシリテーターと連絡が取り合えるようできるだけ早く調整を進めます。



9.4 トライデント・プラウシェアズを支持する請願署名 (個人用)



下に署名した私たちは、「核の犯罪を防ぐ誓約書」に署名することによりトライデント・プラウシェアズの活動家であると自認しているすべての人々を支持します。彼らが平和的かつ非暴力的に、トライデント核システムを「非武器化」しようとする試みは、国際法がよく知られた原則に照らすならば、現在進行中の犯罪行為を止めようと意図したものであることを信じます。

私たちは、英国が 1968 年に「核拡散防止条約」に署名したことを知っています。その第 6 条では、核軍拡競争をやめ、核軍備撤廃のための条約を結ぶことなどにつき、誠実で効果的な話し合いをなるべく早く持つ義務をうたっています。それから 30 年も経つのに、英国はいまだに核兵器競争を続け、NATO は三大核保有国を含む核武装同盟であり続けています。トライデント・システムは英国の核戦力の拡張であり、代替されるポラリス・システムの 3 倍の距離で、8 倍の数の目標をより正確に攻撃できるものです。

私たちは、1996 年 7 月 8 日に（国連の最高の法的機関である）国際司法裁判所のモハメッド・ベシャウィ裁判長が、以下のように述べたことを知っています。「核兵器、この究極的悪は、より少ない悪の法である人道法を不安定にする。従って核兵器の存在はまさに人道法の存在に対する挑戦であり、それが人間環境に与える損害の長期的効果は言うまでもなく、それに関して生きる権利が試され得る」。国際司法裁判所は、セント・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ジュネーブ条約、ジェノサイド条約すべてが核兵器に当てはまることを確認しました。国際司法裁判所ははっきりと核兵器の使用または威嚇は一般的に国際法に違反すると表明しました。国際司法裁判所は核兵器の使用または威嚇の法的根拠を見いだせなかったのです。

私たちは、核兵器に関する法を認めること及びニュルンベルグ原則に基づき人道法違反のあらゆる核兵器システムを注意深く、安全に、かつ平和的に「非武器化」することが、すべての市民にとっての義務であると理解しています。このトライデント・プラウシェアズの活動家は、責任ある地球市民として行動しており、私たちは、英国の核兵器システムを安全かつ平和的に、公明できちんと説明できるような形で「非武器化」という彼らの意図を支持します。

私たちは、トライデント・プラウシェアズの活動家が英国政府や、NATO、その他の政治及び軍事関係当局に対しすべてのトライデント・システムを確実に解体するよう要請することに賛同し、喝采を送るものです。トライデント・プラウシェアズの活動家は、核解体を自らの手であることを望んではいませんが、もし必要であれば、その準備はできており、実行をいとみません。私たちは、彼らの意図を支持します。

署名	日付	氏名と住所	寄付の金額

下記までお送りください。

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.5 トライデント・プラウシェアズを支持する 請願署名（グループ用）



下に署名した私たちは、「核の犯罪を防ぐ誓約書」に署名することによりトライデント・プラウシェアズの活動家であると自認しているすべての人々を支持します。彼らが平和的かつ非暴力的に、トライデント核システムを「非武器化」しようとする試みは、国際法がよく知られた原則に照らすならば、現在進行中の犯罪行為を止めようと意図したものであることを信じます。

私たちは、英国が1968年に「核拡散防止条約」に署名したことを知っています。その第6条では、核軍拡競争をやめ、核軍備撤廃のための条約を結ぶことなどにつき、誠実で効果的な話し合いをなるべく早く持つ義務をうたっています。それから30年も経つのに、英国はいまだに核兵器競争を続け、NATOは三大核保有国を含む核武装同盟であり続けています。トライデントシステムは英国の核戦力の拡張であり、代替されるポラリス・システムの3倍の距離で、8倍の数の目標をより正確に攻撃できるものです。

私たちは、1996年7月8日に（国連の最高の法的機関である）国際司法裁判所のモハメッド・ベシャウィ裁判長が、以下のように述べたことを知っています。「核兵器、この究極的悪は、より少ない悪の法である人道法を不安定にする。従って核兵器の存在はまさに人道法の存在に対する挑戦であり、それが人間環境に与える損害の長期的効果は言うまでもなく、それに関して生きる権利が試され得る」。国際司法裁判所は、セント・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ジュネーブ条約、ジェノサイド条約すべてが核兵器に当てはまることを確認しました。国際司法裁判所ははっきりと核兵器の使用または威嚇は一般的に国際法に違反すると表明しました。国際司法裁判所は核兵器の使用または威嚇の法的根拠を見いだせなかったのです。

私たちは、核兵器に関する法を認めること及びニュルンベルグ原則に基づき人道法違反のあらゆる核兵器システムを注意深く、安全に、かつ平和的に「非武器化」することが、すべての市民にとっての義務であると理解しています。このトライデント・プラウシェアズの活動家は、責任ある地球市民として行動しており、私たちは、英国の核兵器システムを安全かつ平和的に、公明できちんと説明できるような形で「非武器化」という彼らの意図を支持します。

私たちは、トライデント・プラウシェアズの活動家が英国政府や、NATO、その他の政治及び軍事関係当局に対しすべてのトライデント・システムを確実に解体するよう要請することに賛同し、喝采を送るものです。トライデント・プラウシェアズの活動家は、核解体を自らの手ですることを望んではいませんが、もし必要であれば、その準備はできており、実行をいとみません。私たちは、彼らの意図を支持します。（訳：トライデント撤廃キャンペーン）

グループ名と住所		寄付の金額
グループを代表し署名した人		
氏名	署名	役職

下記までお送りください。

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.6 トライデント・プラウシェアズを支持する請願署名 (議員用)



下に署名した私たちは、「核の犯罪を防ぐ誓約書」に署名することによりトライデント・プラウシェアズの活動家であると自認しているすべての人々を支持します。彼らが平和的かつ非暴力的に、トライデント核システムを「非武器化」しようとする試みは、国際法がよく知られた原則に照らすならば、現在進行中の犯罪行為を止めようと意図したものであることを信じます。

私たちは、英国が 1968 年に「核拡散防止条約」に署名したことを知っています。その第 6 条では、核軍拡競争をやめ、核軍備撤廃のための条約を結ぶことなどにつき、誠実で効果的な話し合いをなるべく早く持つ義務をうたっています。それから 30 年も経つのに、英国はいまだに核兵器競争を続け、NATO は三大核保有国を含む核武装同盟であり続けています。トライデント・システムは英国の核戦力の拡張であり、代替されるポラリス・システムの 3 倍の距離で、8 倍の数の目標をより正確に攻撃できるものです。

私たちは、1996 年 7 月 8 日に（国連の最高の法的機関である）国際司法裁判所のモハメッド・ベシャウィ裁判長が、以下のように述べたことを知っています。「核兵器、この究極的悪は、より少ない悪の法である人道法を不安定にする。従って核兵器の存在はまさに人道法の存在に対する挑戦であり、それが人間環境に与える損害の長期的効果は言うまでもなく、それに関して生きる権利が試され得る」。国際司法裁判所は、セント・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ジュネーブ条約、ジェノサイド条約すべてが核兵器に当てはまることを確認しました。国際司法裁判所ははっきりと核兵器の使用または威嚇は一般的に国際法に違反すると表明しました。国際司法裁判所は核兵器の使用または威嚇の法的根拠を見いだせなかったのです。

私たちは、核兵器に関する法を認めること及びニュルンベルグ原則に基づき人道法違反のあらゆる核兵器システムを注意深く、安全に、かつ平和的に「非武器化」することが、すべての市民にとっての義務であると理解しています。このトライデント・プラウシェアズの活動家は、責任ある地球市民として行動しており、私たちは、英国の核兵器システムを安全かつ平和的に、公明できちんと説明できるような形で「非武器化」という彼らの意図を支持します。

私たちは、トライデント・プラウシェアズの活動家が英国政府や、NATO、その他の政治及び軍事関係当局に対しすべてのトライデント・システムを確実に解体するよう要請することに賛同し、喝采を送るものです。トライデント・プラウシェアズの活動家は、核解体を自らの手ですることを望んではいませんが、もし必要であれば、その準備はできており、実行をいといません。私たちは、彼らの意図を支持します。（訳：トライデント撤廃キャンペーン）

氏名、選挙区、所属議会（下院議員、欧州議会議員など）		寄付の金額
氏名	署名	詳しい情報希望の場合は印を付けて下さい
住所：		
郵便番号	電話	

下記までお送りください。

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.7 トライデント・プラウシェアズを支持する請願署名 (著名人用)



下に署名した私たちは、「核の犯罪を防ぐ誓約書」に署名することによりトライデント・プラウシェアズの活動家であると自認しているすべての人々を支持します。彼らが平和的かつ非暴力的に、トライデント核システムを「非武器化」しようとする試みは、国際法のよく知られた原則に照らすならば、現在進行中の犯罪行為を止めようと意図したものであることを信じます。

私たちは、英国が 1968 年に「核拡散防止条約」に署名したことを知っています。その第 6 条では、核軍拡競争をやめ、核軍備撤廃のための条約を結ぶことなどにつき、誠実で効果的な話し合いをなるべく早く持つ義務をうたっています。それから 30 年も経つのに、英国はいまだに核兵器競争を続け、NATO は三大核保有国を含む核武装同盟であり続けています。トライデント・システムは英国の核戦力の拡張であり、代替されるポラリス・システムの 3 倍の距離で、8 倍の数の目標をより正確に攻撃できるものです。

私たちは、1996 年 7 月 8 日に（国連の最高の法的機関である）国際司法裁判所のモハメッド・ベシャウィ裁判長が、以下のように述べたことを知っています。「核兵器、この究極の悪は、より少ない悪の法である人道法を不安定にする。従って核兵器の存在はまさに人道法の存在に対する挑戦であり、それが人間環境に与える損害の長期的効果は言うまでもなく、それに関して生きる権利が試され得る」。国際司法裁判所は、セント・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ジュネーブ条約、ジェノサイド条約すべてが核兵器に当てはまることを確認しました。国際司法裁判所ははっきりと核兵器の使用または威嚇は一般的に国際法に違反すると表明しました。国際司法裁判所は核兵器の使用または威嚇の法的根拠を見いだせなかったのです。

私たちは、核兵器に関する法を認めること及びニュルンベルグ原則に基づき人道法違反のあらゆる核兵器システムを注意深く、安全に、かつ平和的に「非武器化」することが、すべての市民にとっての義務であると理解しています。このトライデント・プラウシェアズの活動家は、責任ある地球市民として行動しており、私たちは、英国の核兵器システムを安全かつ平和的に、公明できちんと説明できるような形で「非武器化」という彼らの意図を支持します。

私たちは、トライデント・プラウシェアズの活動家が英国政府や、NATO、その他の政治及び軍事関係当局に対しすべてのトライデント・システムを確実に解体するよう要請することに賛同し、喝采を送るものです。トライデント・プラウシェアズの活動家は、核解体を自らの手ですることを望んでいませんが、もし必要であれば、その準備はできており、実行をいといません。私たちは、彼らの意図を支持します。（訳：トライデント撤廃キャンペーン）

現職（作家、音楽家、タレントなど）		寄付の金額
氏名	署名	詳しい情報希望の場合は印を付けて下さい
住所：		
郵便番号	電話	

下記までお送りください。

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.8 トライデント・プラウシェアズを支持する請願署名 (大学教員用)



下に署名した私たちは、「核の犯罪を防ぐ誓約書」に署名することによりトライデント・プラウシェアズの活動家であると自認しているすべての人々を支持します。彼らが平和的かつ非暴力的に、トライデント核システムを「非武器化」しようとする試みは、国際法がよく知られた原則に照らすならば、現在進行中の犯罪行為を止めようと意図したものであることを信じます。

私たちは、英国が 1968 年に「核拡散防止条約」に署名したことを知っています。その第 6 条では、核軍拡競争をやめ、核軍備撤廃のための条約を結ぶことなどにつき、誠実で効果的な話し合いをなるべく早く持つ義務をうたっています。それから 30 年も経つのに、英国はいまだに核兵器競争を続け、NATO は三大核保有国を含む核武装同盟であり続けています。トライデント・システムは英国の核戦力の拡張であり、代替されるポラリス・システムの 3 倍の距離で、8 倍の数の目標をより正確に攻撃できるものです。

私たちは、1996 年 7 月 8 日に（国連の最高の法的機関である）国際司法裁判所のモハメッド・ベシャウィ裁判長が、以下のように述べたことを知っています。「核兵器、この究極的悪は、より少ない悪の法である人道法を不安定にする。従って核兵器の存在はまさに人道法の存在に対する挑戦であり、それが人間環境に与える損害の長期的効果は言うまでもなく、それに関して生きる権利が試され得る」。国際司法裁判所は、セント・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ジュネーブ条約、ジェノサイド条約すべてが核兵器に当てはまることを確認しました。国際司法裁判所ははっきりと核兵器の使用または威嚇は一般的に国際法に違反すると表明しました。国際司法裁判所は核兵器の使用または威嚇の法的根拠を見いだせなかったのです。

私たちは、核兵器に関する法を認めること及びニュルンベルグ原則に基づき人道法違反のあらゆる核兵器システムを注意深く、安全に、かつ平和的に「非武器化」することが、すべての市民にとっての義務であると理解しています。このトライデント・プラウシェアズの活動家は、責任ある地球市民として行動しており、私たちは、英国の核兵器システムを安全かつ平和的に、公明できちんと説明できるような形で「非武器化」という彼らの意図を支持します。

私たちは、トライデント・プラウシェアズの活動家が英国政府や、NATO、その他の政治及び軍事関係当局に対しすべてのトライデント・システムを確実に解体するよう要請することに賛同し、喝采を送るものです。トライデント・プラウシェアズの活動家は、核解体を自らの手であることを望んではいませんが、もし必要であれば、その準備はできており、実行をいといません。私たちは、彼らの意図を支持します。（訳：トライデント撤廃キャンペーン）

氏名	署名	寄付の金額
専門	大学	役職（講師、教授など）
住所：		詳しい情報希望の場合は印をつけて下さい
郵便番号：	電話	

右までお送りください。Trident Ploughshares, 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk, NR2 1NR



9.9 トライデント・プラウシェアズを支持する請願署名 (宗教指導者用)



下に署名した私たちは、「核の犯罪を防ぐ誓約書」に署名することによりトライデント・プラウシェアズの活動家であると自認しているすべての人々を支持します。彼らが平和的かつ非暴力的に、トライデント核システムを「非武器化」しようとする試みは、国際法がよく知られた原則に照らすならば、現在進行中の犯罪行為を止めようと意図したものであることを信じます。

私たちは、英国が 1968 年に「核拡散防止条約」に署名したことを知っています。その第 6 条では、核軍拡競争をやめ、核軍備撤廃のための条約を結ぶことなどにつき、誠実で効果的な話し合いをなるべく早く持つ義務をうたっています。それから 30 年も経つのに、英国はいまだに核兵器競争を続け、NATO は三大核保有国を含む核武装同盟であり続けています。トライデント・システムは英国の核戦力の拡張であり、代替されるポラリス・システムの 3 倍の距離で、8 倍の数の目標をより正確に攻撃できるものです。

私たちは、1996 年 7 月 8 日に（国連の最高の法的機関である）国際司法裁判所のモハメッド・ベシャウィ裁判長が、以下のように述べたことを知っています。「核兵器、この究極的悪は、より少ない悪の法である人道法を不安定にする。従って核兵器の存在はまさに人道法の存在に対する挑戦であり、それが人間環境に与える損害の長期的効果は言うまでもなく、それに関して生きる権利が試され得る」。国際司法裁判所は、セント・ペテルスブルグ宣言、ハーグ条約、ジュネーブ条約、ジェノサイド条約すべてが核兵器に当てはまることを確認しました。国際司法裁判所ははっきりと核兵器の使用または威嚇は一般的に国際法に違反すると表明しました。国際司法裁判所は核兵器の使用または威嚇の法的根拠を見いだせなかったのです。

私たちは、核兵器に関する法を認めること及びニュルンベルグ原則に基づき人道法違反のあらゆる核兵器システムを注意深く、安全に、かつ平和的に「非武器化」することが、すべての市民にとっての義務であると理解しています。このトライデント・プラウシェアズの活動家は、責任ある地球市民として行動しており、私たちは、英国の核兵器システムを安全かつ平和的に、公明できちんと説明できるような形で「非武器化」という彼らの意図を支持します。

私たちは、トライデント・プラウシェアズの活動家が英国政府や、NATO、その他の政治及び軍事関係当局に対しすべてのトライデント・システムを確実に解体するよう要請することに賛同し、喝采を送るものです。トライデント・プラウシェアズの活動家は、核解体を自らの手であることを望んでいませんが、もし必要であれば、その準備はできており、実行をいといません。私たちは、彼らの意図を支持します。（訳：トライデント撤廃キャンペーン）

氏名	署名	寄付の金額
聖職（例、主教）	宗教	詳しい情報希望の場合は印を付けて下さい
住所：		
郵便番号：	電話	

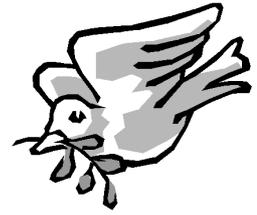
下記までお送りください。

Trident Ploughshares, 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk, NR2 1NR

9.10 トライデント・ブラウシェアズに参加しませんか

核兵器廃絶を求める大規模なブラウシェア・アクションは、主にスコットランドのファスレーンとクールポート、および英国のトライデント関連施設で行われます。

ブラウシェア・アクションとは、兵器や戦闘システムがこれ以上人々を傷つけることができないように、公然と非暴力で、しかも責任を持ってそれらを無力化し、平和の実現と軍縮に向けて行動することです。これは、「刀を打ち直して鋏にする」という聖書の預言を実行するものですが、さまざまな信念を持つ人々がこの運動に参加しており、もはやキリスト教徒やユダヤ教徒だけの運動ではありません。平和と軍縮、また非暴力による紛争解決への道を万人に広く訴えていくことが、この運動の基調です。戦争は常に力の乱用であり、殺戮の脅威を与えるのは、甚だしく人の道に反する行為です。



トライデント・ブラウシェアズプロジェクトは、50年以上前に広島、長崎に初めて原爆が投下されて以来、積極的に核廃絶に取り組んできた国際平和運動の一つです。新しい千年期を核のない世界にするために、私達は平和的に、公然と、責任を持って英国のトライデント核兵器システムを廃絶しようと努力しています。これは、広く認められている国際法の原則にもとづいて、今も続いている核による犯罪をやめさせることを目的としています。

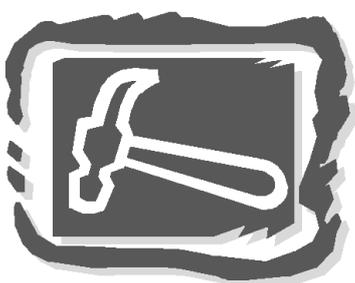
アフィニティ・グループと呼ばれる 3 人から 15 人の小さな独立したグループに別れた 170 人以上の世界各国からの活動家が、すでに「**核の犯罪を阻止するための誓約書**」に署名しています。彼らは「誓約者」と呼ばれ、英国のトライデント核兵器システムを平和的に非武器化することを公約しています。

私達は、まず 1998 年 3 月英国政府に、英国が締結している国際協定に従ってトライデント潜水艦を廃絶するように要望しました。例えば、1968 年の核拡散防止条約の第 6 条には、「本条約の加盟各国は、早期に核軍備競争を停止し、核兵器を廃絶するために効果的な措置をとり、嚴重かつ有効な国際管理のもとで全面的かつ完全な軍備縮小に関する条約について誠実に交渉することを約束する」と述べられています。

警察官や警備係との接触もオープンにまた友好的な態度で続けられています。ハンドブックやビデオ、またインターネットのサイトは、私達の考え方や論理的根拠を説明するのに有用です。あらゆる関係当局に、「核の犯罪を阻止するための誓約書」に署名したすべての人のリストを提出していますが、私達の行動をすべて公開し、責任ある行動を行うという約束を改めて強調するものです。新しい誓約者の名前を記した最新の資料が、定期的に首相など関係当局に送付されています。

私達は独立したアドバイザー・グループを設立し、**対話と交渉チーム**を結成しました。このチームは、政府が核を廃絶するために行うべき実際的なプロセスとして、実行可能でかつ有効な 9 項目の要求を行いました。こうした要求に対して何ら建設的な解答が得られず、会談も拒絶されました。しかし、トライデント・ブラウシェアズは、存在する限り対話への努力を続けていくでしょう。

トライデント・ブラウシェアズは、1998 年 5 月 2 日、ロンドン、エジンバラ、ゴートンバーグ、ゲント、そして広島で公然と活動を開始しました。政府高官に書簡を送り、NATO 加盟 16 カ国の首脳や外相と接触を続けています。私達は書簡を交換し続けており、どのような対話や交渉にも道を開いています。私達は政府当局自らがトライデントを廃絶してくれるよう望んでいますが、彼らが言い逃れに終止しているため、自分達のやり方で実行せざるを得ないということを明確に公表しています。



「**公開の軍縮行動**」は、1998 年 8 月に初めて行われ、数百人の人々が 2 週間の軍縮キャンプに参加し、約 100 人が逮捕されました。キャンプが終わるまで

に、さまざまな国から参加していた 9 人が、スコットランドで裁判のために勾留されました。また地元のヘレンバーグ地方裁判所では、数十件の事件が審理されました。それ以来、国際法の専門家が出席してあらゆる核兵器の一般的違法性を明確に示した裁判が数多く開かれています。最も成功した裁判は、1999 年 10 月にスコットランドのグリーンロックで行われた画期的裁判「ゴイル湖の 3 人」です。この裁判でマーガレット・ギムブレット裁判官は、アンジー・ゼルター、エレン・モクスレー、ウラ・ロダーの 3 人に、トライデント潜水艦に不当に損害を与えた容疑にたいし無罪判決を下しました。裁判官は、「被告人がそのような犯罪的意図をもって行動したと思わせるような事実を何一つ耳にしなかった」という不朽の言葉を述べました。

裁判官は彼女らが無罪にし、国際法が英国の核抑止に適用されるということを認めたことにより大量破壊兵器に関する政府のひとりよがりの主張に大きな風穴を明けたのです。

2000 年 3 月に行われたイングランドの「ニューベリー」の 4 人の裁判で、判事はトライデント・プラウシェアズの活動家の弁護に専門家が証言することを許可しましたが、結局有罪判決を下しました。「オルダーマストーン・ウィメン・トラッシュ・トライデント・アフィニティ」のロージとレイチェルは、最新のトライデント潜水艦がバロー港に停泊中に侵入し損害を与えました。彼女らの裁判は、2000 年 9 月不一致陪審に終わりましたが、このような裁判の詳細は、トライデント・プラウシェアズのホームページ www.tridentploughshares.org で見ることができます。

各アフィニティ・グループは、クエーカー教を基盤とした Turning the Tide (流れを変える) プログラムを受けた人々による

非暴力と安全のワークショップに参加しなければなりません。このワークショップは、個人やグループが精神的、肉体的、法律的に活動に備える手助けをし、譲ることのできない原則を明確にするものです。これらの基本原則には、絶対的な非暴力を貫き安全を確保し、情報を公開し責任をもって行動することが含まれています。コア・グループのメンバーは、各グループの到達度をチェックし、サポートを与え、責任感のある、全面的に献身的な非暴力の活動家のみを参加させるために各グループと連絡を取り合います。私達が相手にしているのは、非常に危険な放射能を持った核兵器システムであり、すべての人の安全が保証されなければならないのです。

アフィニティ・グループは、計画や実行日を知らせることなく「非公開」で軍縮行動を行うこともあります。とはいうものの、自分の行動に十分に責任をもち、行動を固守し、意図を明らかにし、また結果に責任を負うのは、勿論です。トライデント関連施設はすべて、プラウシェア・アクションの対象となります。各アフィニティ・グループは、自分の家に近いトライデント関連施設で、また、海外に在住しているメンバーの場合は、近くの NATO 施設で、行動を継続したり、非公開の軍縮行動を行うことができるでしょう。

私達は法的な防衛手段をもち、法律を遵守していると信じていますが、裁判所は私達に同意しないかもしれません。もし、私達が実際に損害を与えた、あるいは大規模な損害を与える計画を謀議した容疑で、最終的に有罪判決が下されれば、理論的に言って**最高 10 年の懲役刑を受ける可能性がある**ことを、活動家一人一人が

理解しなければなりません。今までのところスコットランド裁判所の判決は軽い（ほとんどの人が無罪となり、逮捕者の 40 パーセントが有罪となったけれども、主に訓戒や小額の罰金を課せられたにすぎなかった）ことがわかっていますが、このような判決が続く保証はありません。



私達のアクションがスコットランドに対するものであれ、イングランドに対するものであれ、どのような場合にも、最高の懲役刑を受けることを覚悟しなければなりません。最高は 10 年です。このアクションの道義的、政治的効果を高めるには、いかに多くの普通の人々が、核兵器を廃絶するため

トライデント・プラウシェアズ に資金援助を

このプロジェクトは、できる限り経済的に自立するように作られています。このため、活動家一人一人に「トライデント・プラウシェア」の口座に 10 ポンド(約 1800 円)寄付するようお願いしています。一般の人々にもまた、寄付をお願いしています。活動家としての役割を果たすのを躊躇している方でも、御寄付いただければありがたいです。

に進んで個人を犠牲にしているかを示すことです。

しかし、刑務所には入りたくないという人には、実際に非武器化を行うのと同じくらい重要な、欠かすことのできないサポートの任務が多数あり、各アフィニティ・グループは両方を必要としています。また、懲役刑の危険性が大きいにして小さいにして、さまざまな軍縮行動があります。

このプロジェクトは公開されており、政府当局は私達が誰なのか、またいつ行動するかを知っているので、トライデント潜水艦に近づいて、非武器化するのは大変むずかしいことです。しかし、このプロジェクトの目的は、核廃絶への世論を形成し私達の主張に人々を賛同させ、政府に民衆の意見に応えるよう促すことなので、私達が基地に近づく前に、あるいはフェンスを切っている間に逮捕されたとしても、失敗したことにはならないのです。自分達自身でトライデントを廃絶しようとした何百人という仲間によって、おそらく英国政府は自らトライデントを廃絶することになるでしょう。

私達は、「Tri-denting It **Handbook**(トライデントをハンマーで打ち壊すためのハンドブック) – トライデント・プラウシェアズのオープンガイド」を作成しました。このハンドブックは、トライデント・プラウシェアズの考え方や背景および組織について包括的な概説を与え、核兵器の一覧やトライデントの法的立場について、またグループがいかに関与しているか、そして行動を起こし裁判を受け刑務所に入る覚悟についてのアドバイスなど、有用な章を含んでいます。また、トライデントを非武器化する方法についてのアイデアも記されています。

このハンドブックを通読し、さらに「核の陰謀をハンマーで打ち壊す – 国際法を支持」と題する 16 分間の**ビデオ**を見ることを勧めます。ビデオはファスレーン海軍基地の全容を映しており、非暴力と安全の基本原則を概説しています。

活動に参加している多くの人々が、彼らの軍縮活動を純粋に道徳的観点から法廷で抗弁するでしょうが、私達は「核兵器の脅威または使用の合法性(1996年7月8日)に関する**国際司法裁判所の勧告的意見**」に基づいた、しっかりとした合法的な抗弁を行うことができます。裁判で行われたこのような抗弁についていくつかの例をホームページwww.tridentploughshares.orgに掲載しています。また、NR2 1NR ノーウィッチ、ベッスル通り 42-46、トライデント・プラウシェアズ事務所(the TP Office, 42-46 Bethel Street, Norwich, NR2 1NR)から入手することもできます。スコットランドの裁判所に出頭したすべての人をサポートする、**法的支援チーム**も常設されています。また現在、イングランドの裁判をサポートするために同様のチームを結成しているところです。しかし、各アフィニティ・グループは、将来いずれかの段階で大量の逮捕者がでた場合にもこのキャンペーンが崩壊することのないように、できる限り自主的・自立的に運営すべきです。

参加に興味のある方は、質問用紙に記入し、ノーウィッチのトライデント・プラウシェアズ事務所に返送してください。アフィニティ・グループにまだ入っていない方、また地域で一緒に行動する人が見つからない場合は、適当なアフィニティ・グループを見つける手助けをします。

質問用紙

ご記入の上、Trident ploughshares, c/o 42-46 Bethel St, Norwich, Norfolk , NR2 1NR, UK までお送りください。尚、これらの質問に回答することによって謀議の容疑を受ける可能性のあることをご承知ください。ご心配な方はコア・グループにご連絡くだされば直接お会いして内々にご説明いたします。

1. 氏名 _____
住所 _____

電話 _____ FAX _____ 電子メール _____

2. トライデント・プラウシェアズ行動への参加に興味がある： はい いいえ

3. すでにアフィニティ・グループに入っている： はい いいえ

はいと答えた方にお聞きします

アフィニティ・グループは□人からなり全員がトライデント・プラウシェアズに参加する
人数をご記入ください

いいえと答えた方にお聞きします

自分で地元のアフィニティ・グループを作る はい いいえ
または
適当なアフィニティ・グループに入れて欲しい はい いいえ

4. こちらの選んだアフィニティ・グループを希望する方は、あなたの年齢、性別、興味など、アフィニティ・グループを選ぶ上で参考になると思われることをご記入ください。

5. 次の活動に協力したい

一般活動への参加 はい
報道関係 はい
資金集め はい

その他協力していただけることを具体的に記入してください： _____

6. 私は、_____円寄付します（トライデント・プラウシェアズ宛ての小切手をこの質問用紙と共に
お送りください） 活動家の皆さんには 10 ポンド(約 1800 円)の寄付をお願いしています。

7. 配布したいのでパンフレットを_____部送って欲しい

8. その他ご意見、ご希望などご記入ください

10 章 住所録と関連情報

10.1 住所録

トライデント・プラウシェアズ(TP)住所

TP 代表住所—トライデント・プラウシェアズ、42—46 Bethel St Norwich

Norfolk, NR2 1NR,UK に連絡してください。

TP eメール—tp2000@gn.apc.org

TP 電話・ファックス—Tel: 01324 880744

Fax: 01436 677529

Eメール・ディスカッション・リスト—参加希望者は、ジェーン (Jane) Tp2000@gn.apc.org まで連絡してください。

TP ニュース電話サービス—01603 469296

TP ウェブサイト—www.gn.apc.org/tp2000/ or www.tridentploughshares.org

法的支援グループ—一般及びスコットランドチーム：ジェーン

Tel:01436 679194 Fax:01436 677529 まで連絡してください。

イングランド：アンドリュー (Andrew) 0191 209 3140

email: andrew@andrewgray.uklinux.net

コートンベール刑務所支援グループ—ヘレン (Helene) 01259 452458 まで連絡してください。

その他の裁判所・刑務所の住所—パート7. 7. 4. と7. 8. 2を参照してください。

プレス・チーム—デイビッド (David) 01324 880744 まで連絡してください。

非暴力と安全に関するワークショップ予約—c/o Alison Crane, 36 Yelverton Ave, Weeping Cross, tafford, ST17 OHE. Tel: 01785 611768 email: alison.crane@ntlworld.com

その他の住所

ファスレーン・ピースキャンプ—Shandon, Helensburgh, G84 8NT. Tel:01436 820901

email: faslania@faslanepeacecamp.org or faslanepeacecamp@hotmail.com

website: www.faslanepeacecamp.org

Nukewatch UK—22 Edmund St, Bradford, BD5 OBH. Di McDonald

Tel: 02380 554434 email: nis@gn.apc.org

英国 CND—162 Holloway Road, London, N7 8DQ. Tel: 020 7700 2393

Fax: 020 7700 2357 email: enquiries@cnduk.org

website: www.cnduk.org

スコットランド CND—15 Barrland St, Glasgow, G41 1QH.

Tel: 0141 423 1222 Fax: 0141 423 1231 email: cndscot@dial.pipex.com

Turning The Tide—Friends House, Euston Road, London, NW1 2BJ.

Tel: 020 7663 1064 Fax: 020 7663 1049 email: kiris@quaker.org.uk

世界法廷プロジェクト UK—c/o George Farebrother, 67 Summerheath Rd,

Hailsham, Sussex Tel: 01323 844269 email:

geowcpuk@gn.apc.org

website: www.gn.apc.org/wcp

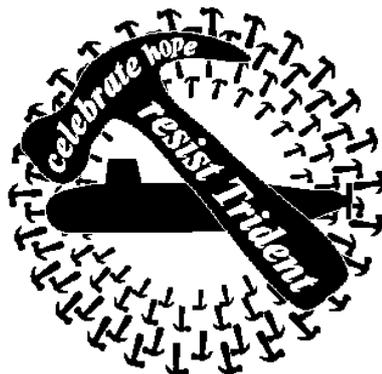
10.2 関連情報

10.2.1 数字と図表による検証

英国がトライデントにかかる経費：

- ・ 年間 1 億ポンドから 15 億 (1800 億円から 2700 億円)
- ・ 毎分 2000 ポンド (36 万円)

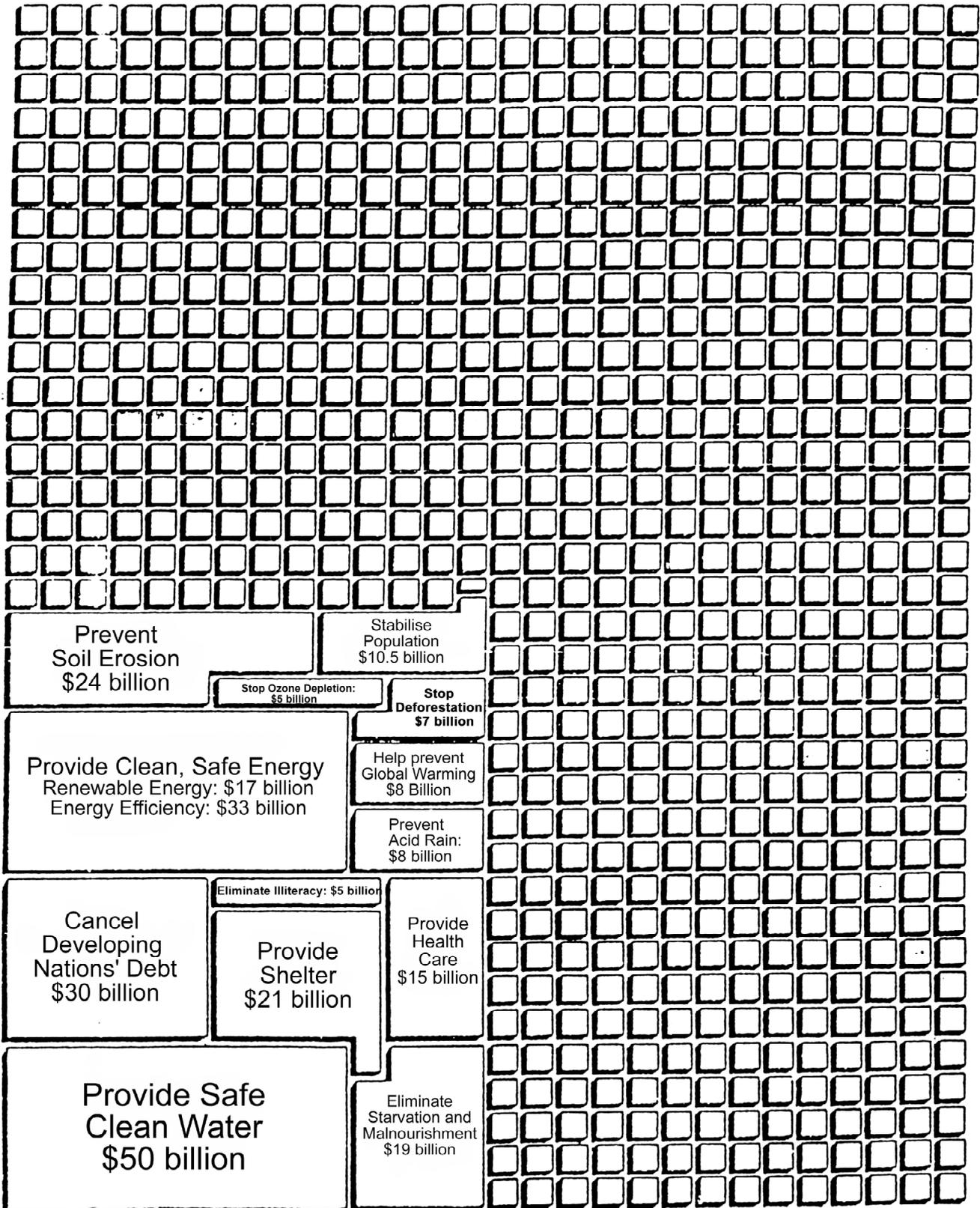
トライデントにつき込まれなければ、どれだけの金額が地域共同体のために使えるだろう。図にみられるトライデントの年間経費をイギリスの人口 (6 千万人) で割り、あなたの地域の住民数に掛ける。この数字をポスターやちらしにして街頭でアピールしよう。トライデントにかかる費用で、社会全体に役立つプロジェクトにどれだけ投資できるのかという点を明確に描き出すのは効果的な方法である。



What the World Wants

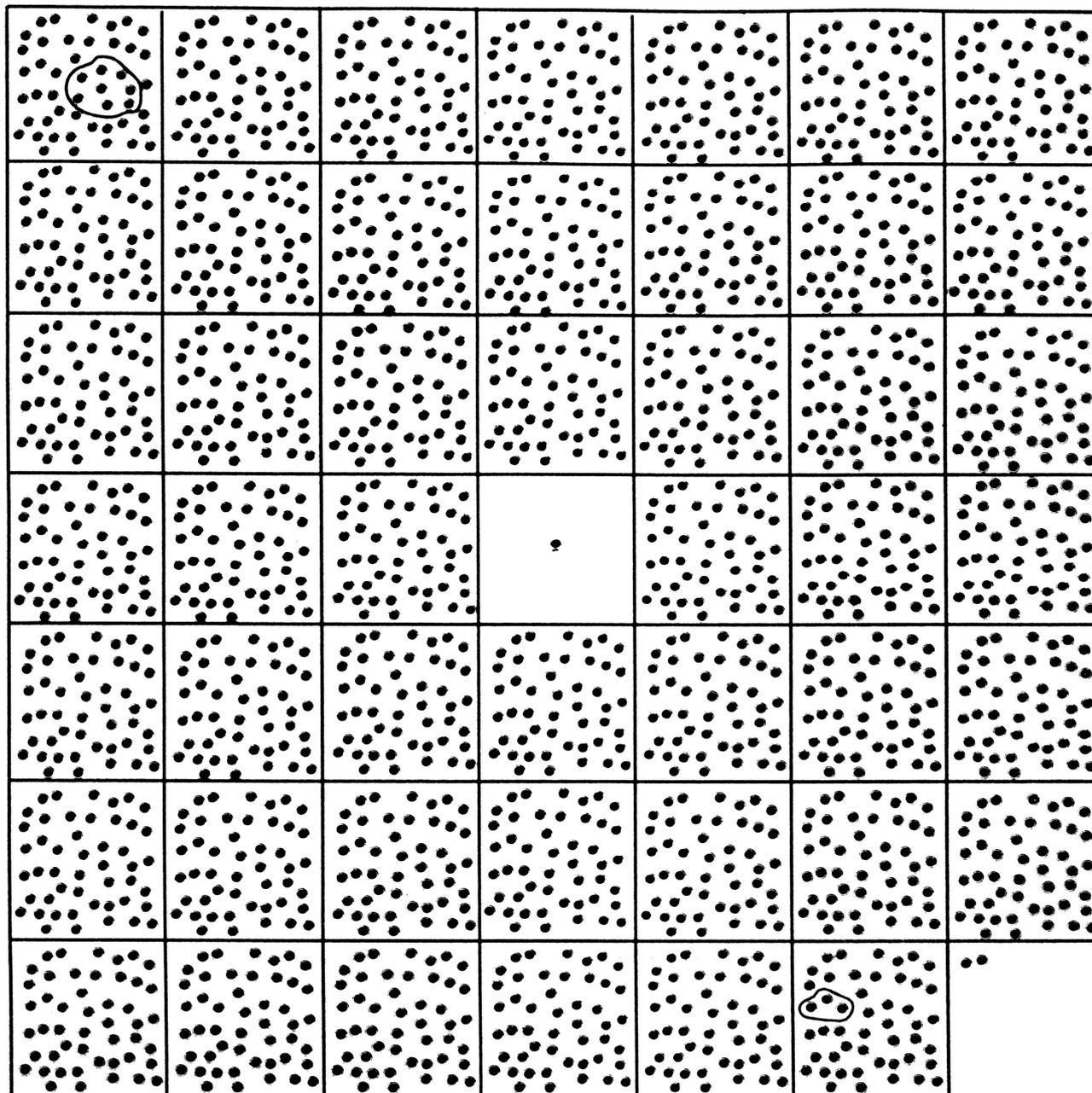
and how to pay for it

using World Military Expenditures.



The above are estimated annual costs of various global programs for helping to solve the major human need and environmental problems facing humanity. Their combined total cost is approximately 25% of the world's total annual military expenditures. All figures are at 1994 prices.

-  Total Chart = Total Annual World Military Expenditures: \$1 trillion
-  One-tenth of One Percent of Annual World Military Expenditures: \$1 billion
-  Amount That Was Needed to Eradicate Smallpox From the World (Accomplished 1978): \$300 Million



1990年代の核兵器過剰殺戮力

上図のような点のチャートはもともと冷戦中につくられたもので、当時世界の兵器庫には 6 万 5000 個以上の兵器が貯蔵されていた。上図は現在の兵器保有数、約 3 万 5000 個に合わせて当時の図を改訂したものである。この核兵器の大半が米国とロシアに保有されている。

図の中央：点は第二次世界大戦中の兵器の破壊力の総力—3 メガトンを表わす。

図中のその他の点は第二次世界大戦の兵器による破壊力の 2667 倍に匹敵する現在の世界の核兵器保有数を示す。

図の右下：線の囲み部分は—9 メガトンもしくは第二次世界大戦の 3 倍の破壊力—原潜ポセイドンに搭載されている核兵器の数を表わす。これはロシア、米国その他世界の最大規模の都市 200 以上を破壊できることを示す。

図の左上：線の囲み部分は 24 メガトンもしくは第二次世界大戦の 8 倍—北半球の主要都市すべてを破壊する破壊力に匹敵し、原潜トライデントイ 1 隻搭載の核兵器破壊力を示す。

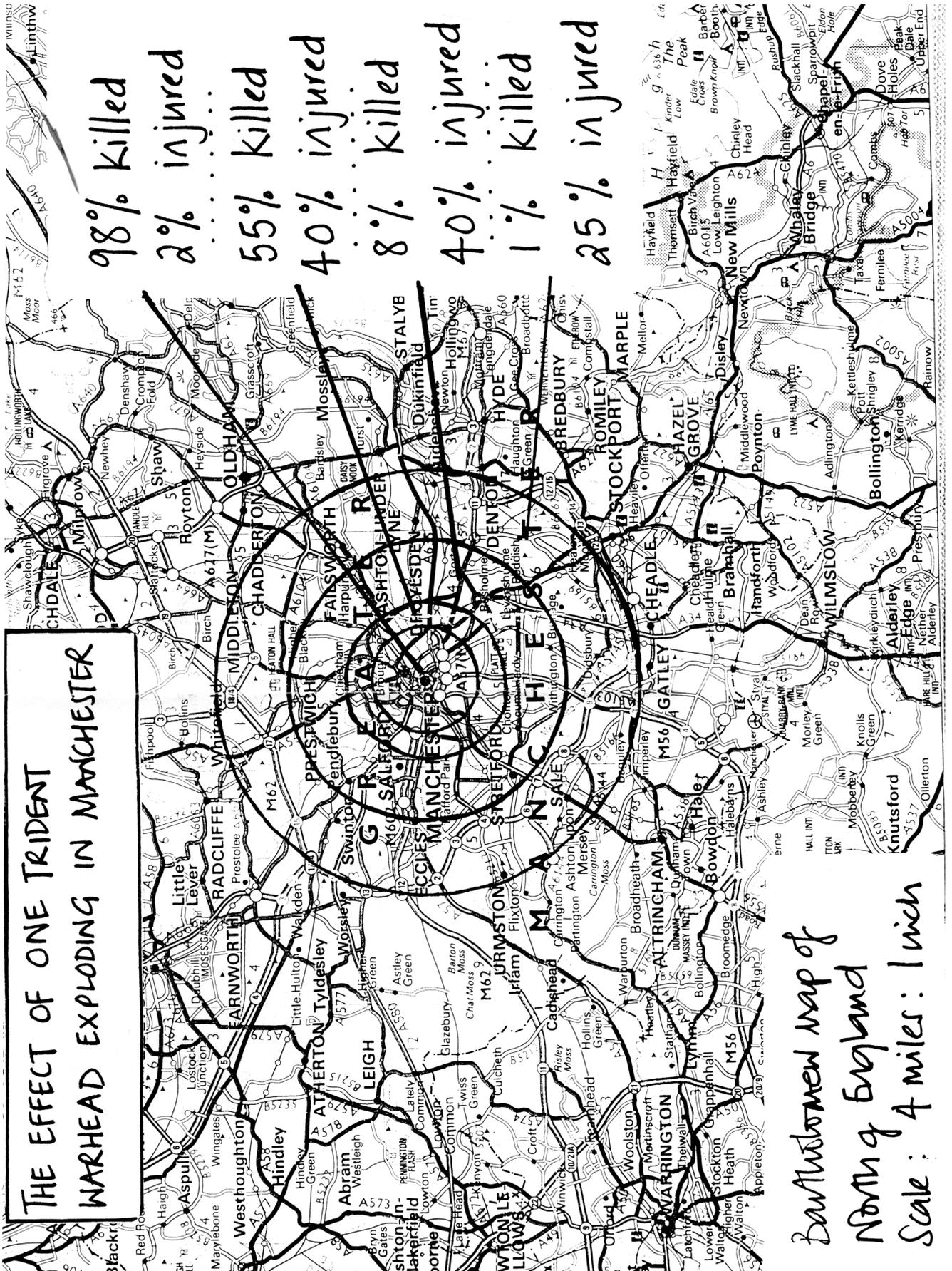
図の四角形 2 個+点 4 個は 300 メガトン、世界の、大、中規模の都市をすべて破壊しうる破壊力を示す。

マンチェスター上空でトライデント・ミサイル核弾頭1個が爆発した場合に及ぼす影響

イギリス北部、バーソロミューの地図

スケール・4マイル:1インチ (1.6km : 2.54cm)

98% 死亡 2% 負傷 55% 死亡 40% 負傷 8% 死亡 40% 負傷 1% 死亡 25% 負傷



THE EFFECT OF ONE TRIDENT
WARHEAD EXPLODING IN MANCHESTER

98% killed
2% injured
55% killed
40% injured
8% killed
40% injured
1% killed
25% injured

Bartholomew map of
North of England
Scale: 4 miles: 1 inch

10.2.2 政治家に送るサンプル・レター

拝啓

私は、最近の核拡散防止条約再検討会議（Non-Proliferation Treaty Review Conference）で表明された核軍縮の必要性を訴える意見に希望を見出したのですが、具体的な行動内容が示されず、なかでも核廃絶に至る期限の設定に合意が得られなかったことに失望しております。

英国国民は核軍縮の実現をこれ以上待てないくらい長い間待ち望んできました。私たち多くの国民は教育と医療を優先させる政府の政策を支持するとともに、現在の大量破壊の軍備につかわれる財源がもっと建設的なものに使用される時期がくるのを切望しています。

世論調査によれば、イギリス国民の大半が核兵器のない世界の実現に向い政府が努力を傾けることを望んでいます。1997年の調査ではイギリス国民の59%が、核兵器の廃絶が国家の安全保障にとって最良であると確信するとしています。これは、NPTが核兵器の技術と製造に関し、その拡大の防止にほぼ成功しつつも、未だ多くの不備があるという事実に起因しています。現在、新たに核保有国となりながらNPTに非加盟の国々（インド、パキスタン、イスラエル）に対してモラルや加盟を含めた様々な交渉を求める論拠は、私たちが核兵器を保有している限り説得力を持ちません。

筆舌に尽くせぬ苦しみをもたらす核兵器を使用するという考えは、実に憎むべきものです。このような苦しみを受けるのは主に戦闘員より罪のない市民であり、直接紛争に関わっていない国々なのです。

トライデント・システムには、人道に反するという論議に加えて、確固たる法的な問題が存在します。国際司法裁判所の勧告的意見は、核兵器の使用及び威嚇は一般的に国際人道法に違反するものであるとし、国際司法裁判所は、核兵器による使用及び威嚇はその他の武器と同様、国際人道法に準じ、またその及ぼす影響によって判断されなければならないと全員一致で確認しています。軍事的攻撃目標と市民とを区別することが出来ない兵器は違法です。

国際司法裁判所は、国家の「存亡にかかわる極限状況」では、核兵器の使用・威嚇が合法か違法かの判断をくだしていません。なぜならそれを判断するのに十分な詳細情報が与えられていないからです。イギリス政府は再三の要請を受けても、トライデントが国際法に適う形で使用され得る状況を説明するに至っていません。にもかかわらず、イギリスのトライデントシステムは100キロトンの核弾頭を装備しているのです。そのような大量の核弾頭の使用が、国際法を遵守するかたちで制御しうるものなのかは疑問です。それゆえ、即答をいただきたいのは、政府はいつ国際法を適用し、これら違法な大量破壊兵器の武装解除をするのかということなのです。

さらに、ロシア、中国から強い反発を受けている National Missile Defense programme（米国ミサイル防衛プログラム）を実施する上で、ABM条約一弾道弾迎撃ミサイルを制限する条約一を破棄しようとする米国のプランに懸念を表明します。これは危険かつ軽率な動向であり、イギリス政府は、世界の軍事拡大競争に新たな局面を展開しかねないこの状況に対し確固たる立場を表明するとともに、我が国の国土と資源をこのような目的に使用することで米国政府と協力体制をとることのないよう望みます。

私は、イギリス政府が第一段階として以下のことを実行することで、トライデント核兵器システムプログラムを破棄するべきであると確信します。

- ・ 1997年の総選挙前の公約にあるように、「先制攻撃をしない」核兵器政策を宣言すること。
- ・ トライデントをNATOの指揮下から外すこと
- ・ トライデント原子力潜水艦4艘の24時間パトロールをただちに解除すること。



10.2.3. 核の事故

記 ロイド・デュマス

10 年前の冷戦の終結時、世界をあげて安堵のため息を洩らした。

核兵器を保有する二つの超大国間の 50 年間に及ぶ対立に、平和的終結がもたらされたのだ。核の時限爆弾は信管を抜かれ、緊張から解除されたとみえた。しかし、物事は目に見える現実ばかりではない。

冷戦が終結したにもかかわらず、極めて有害な核物質はそのまま残され、それが人間社会を脅かしつづけることとなったのである。昨年夏の終わる頃、ロシアの最新艦隊の潜水艦、クルスクが沈没した。乗員 118 人の安否の行方に世界は釘づけとなった。しかし、この沈没は通常の見聞事故に止まらなかった。これによって 2 基以上の原子炉とおそらくは核弾頭が海底の核の墓場へと送り込まれたのである。

「この 50 年間に平均して 6 ヶ月に一度深刻な核の事故が発生している。潜水艦に加えて、これらの事故には戦闘機、爆撃機、ミサイル、軍の核廃棄物貯蔵施設、軍艦が含まれる」

直ちに核弾頭を潜水艦から取り外し、安全かつ確実に陸上の保管施設に貯蔵すること。

兵器の削減・廃絶に向けた条約の協定、交渉のため技術的、財政的、政治的に取り組む議論を高めること。

核兵器廃絶のプロセスでイギリスが先頭的立場を貫くが早急に求められます。核兵器のない世界を速やかさせるため、政府のできる努力をすべて実行されることを求めます。

世界の海底に散らばる 6 基の原子炉とおよそ 50 の核弾頭に新たな数が加わったことになる。この冷戦時代の負の遺産が、現在どのように環境に影響を及ぼしているのか、また将来どのくらい影響が出てくるのかはよくわかっていない。同様に、海底に放置された原子炉と核弾頭が年月の経過とともにどのように損傷を受けていくのかも明らかになっていない。

それらは海底でどのような状態になっているのだろうか。クルスクに先立ち 2 隻の米国原子力潜水艦と 5 隻のロシア原潜が同様の状況に陥っている。このうちのヤンキークラス（旧ソ連の弾道ミサイル積載原子力潜水艦）のロシア潜水艦は、液体燃料に引火し、火災爆発を起こし沈没した。これにより原子炉 1 基と 34 個の核弾頭がこの合計数に加わる。それは 1986 年、バムューダーの北方海域 600 マイルで沈没したもので、核水雷 2 基と、それぞれに 2 基の弾頭が装着された 16 のミサイルを搭載していた。1990 年、ロシアの科学者が米国の専門家に語ったところによれば、艦船は大破、海底に散乱するミサイル、核弾頭はひどい損傷を受けているとされている。さらに彼らは、「核弾頭はひどく腐食し、プルトニウムとウランが漏れ出しているのは間違いない」と思われる、と言ったと伝えられている。

クルスクが造船される 45 年前まででも、公式発表

で少なくとも 89 件、深刻な核による軍事事故が発生している（自著「リーサル・アロガンス」付記のリスト参照）。

この 50 年間に平均して 6 ヶ月に一度深刻な核の事故が発生している。潜水艦に加えて、これらの事故には戦闘機、爆撃機、ミサイル、軍の核廃棄物貯蔵施設、軍艦が含まれる。59 件は米国軍、25 件がロシア/旧ソビエト軍、4 件がフランス軍、1 件がイギリス軍によるものである。以下は実際例である—1965 年、B43 核弾頭を搭載した A-4E ジェット戦闘機が、米国航空母艦ティコンデロガから落下し、沖縄近海東 200 マイル（4800 km）の海域 3000 メートルの深海に沈没。1970 年以前、旧ソビエト軍用機が少なくとも核弾頭 1 個搭載して日本海に墜落。1984 年、同様に日本海、旧ソビエトのゴルフ 2 級の原子力潜水艦が航行不能、漂流中にミサイル燃料に火災発生。

1989 年、米国軍は最終的に、沖縄付近の海に落下した B-43 核弾頭は現在も日本の島からわずか 100 キロメートルの海底に沈んだままである、との発表を行っている。また、深海のすさまじい水圧を受けて水素爆弾は、ほぼ全壊、高濃度の有毒プルトニウムが海底を汚染していることはまちがいないと語っている。

途方もない量のプルトニウムと高濃度ウランは、冷戦時代が残した致命的な落とし子である。特にプルトニウムは危険である。1996 年はじめ、米国のエネルギー省（米国の核兵器プログラムの推進機関）は、画期的なレポート「プルトニウム：50 年史」を刊行している。それによると、プルトニウムの備蓄量は国防総省のものを合わせ、11 万 1400 キログラムだということだ。

鉛より重い金属であるプルトニウムがわずか 4、5 キロあれば、通常の核兵器が 1 基、十分に作れるのである。1~12 mg というほんの少量のプルトニウムの塵を吸い込んだだけで、吸った人間の半数は 1~2 年以内に死亡する。わずか 1 マイクログラムを吸い込んでも長期の潜伏期間を経て、致命的なガンを引き起こす。

貯蔵量を追跡管理するためのシステムは、どんなシステムでもある程度の誤差を指す項目がある。米国のプルトニウムの報告も例外ではない。1970 年まで

はエラーは原因不明（material uncounted for : MUF）と称されていたが、1978 年以降、目録上の差異（inventory difference: ID）と言い方を変えた。しかしながら、その意味内容は同じである。MUF も ID も目録上の数字と実際の在庫の数との差異のことである。

最初の 50 年の記録によれば、米国のプルトニウムの MUF / ID は平均約 2.5% となっている。改善策がとられたその後の数十年間で MUF / ID はわずか 0.8% に縮小されたと主張している。しかしながら、莫大な米国のプルトニウムの総量に MUF / ID 0.8% という数値を適用すると、890 キログラムが「管理の枠外に」あることを意味する。これは、180 個の核兵器を製造するに十分な量である。そして、それは地球上の全国家を破滅させてあまりある破壊力を有する。

ロシアの核物質の記録ははるかに精度を欠くと思われるので、ロシアが保有するプルトニウムの目録については把握のしようがない。最も近い 1996 年でも、ロシアは未だに旧ソビエト時代からある 1500~2000 の個々の核施設の多くで、核物質の総量、配置、状態に関して正確な記録を有していない。

「管理の枠外」にあるとは、そこらの学校や駐車場の敷地内に無防備なまま放置されているということではない。これは記録保持システムに記録されずに貯蔵庫から持ち出された可能性がある、つまり消失したことを意味する。

MUF / ID 問題は、プルトニウム以外の核物質及び化学爆発物、通常兵器、さらに言えば核兵器の目録についても存在する。西ヨーロッパの警察では明らかに旧ソ連の核施設から盗み出されたと思われる核物質をブラックマーケットで売買し逮捕された記録が数百件に及んでいる。

アレクザンダー・レベド大佐、ボリス・エリツィン前大統領の前安全顧問は 1997 年、100 以上の核爆弾の「スーツケース」がロシア兵器庫内から紛失していたと主張している。

これらの完全というには程遠い管理システムは、世界の他の国々に核を拡散しかねない。それと同時に恐れるのは、そのうちテロリストや犯罪者が核兵器そのものや、その製造に欠くことのできない核物質を手に入れてしまう可能性があるということだ。

使用可能な核兵器を作り出すために必要な知識は、長い間公開されてきた。25 年以上も前に、米国の 2 人の大学生が一般的に入手可能な情報を使い、使用できる核兵器を 1 ヶ月ほどの間にそれぞれが独力で作り出してしまった。

ここで問題になるのは、必要な核物質の入手経路である。最近の報告例では、1995 年、神経ガスのサリンを東京の地下鉄に撒いたカルト集団オウム真理教は、核兵器製造に必要なウランの入手を目論んでいたのではないかと、日本の警察は疑っている。

同時期、米国のロスアラモスの核兵器研究所の 17 人の科学者に、普通の電気店が持つ程度の技術とブラックマーケットで入手できるタイプの核燃料を用いて、テロリストタイプの核兵器製造を試みるという課題が出された、との報告がなされている。彼らは 12 個の「自家製」核爆弾を製造することに成功した。冷戦時代の置き土産には、核兵器製造の副産物である大量の核廃棄物も含まれる。

ロシアのコーラ半島は旧ソ連時代の 100 年間、原子力潜水艦の廃棄処分場となってきた。原子炉はそのまま船上に残され、腐食するに任されている。こうした原子炉から取り外された 5 万個の核燃料部品は、貯蔵タンク内に置かれたままで、その一部は紛れもなく漏れ出している。それが軍施設の戸外の貯蔵所や造船所敷地内に放置されている。再処理及びより安全でより永久的に保存するために運び出されるまでには、さらに数 10 年を要するであろう。

米国の人口の 20%以上が現在、軍関係の核廃棄物の貯蔵施設から、約 50 マイル (80 km) の範囲内に居住している。100 万ガロン (450 万リットル) もの液体の核燃料廃棄物がタンクに入れて、地上あるいは地下に貯蔵され、その結果、多くの問題が発生している。ワシントン州、ハンフォードのある場所では 90 万ガロン (400 万リットル) の放射性廃棄物が 68 の貯蔵タンクから漏れ出し、その他にも 13 億立方メートルの液体放射性廃棄物と他の汚染流動物質が故意に地下に流し込まれている。

政府は、これが地下水に達するのは少なくとも 1 万年後であるとの理由で、心配は要らないとの主張を続けている。しかし、1997 年 11 月すでに地下水脈に達している。

ところが、自分たちの生み出したすべての核廃棄物をどのように安全に処理し、どのように安全に貯蔵するのかは、だれにもわかっていないのが現実だ。しかも、そのなかには生態系から一万年以上隔離しておかなくてはならないものも含まれているのだ。

これは有史以来の人類の歴史よりも長い。エジプトにピラミッドができる数千年前から宇宙やコンピュータの時代にいたるまでの間に、政治、社会、技術がどのような変遷を遂げてきたかを考えてみれば、きわめて危険な物質を長期に亘り確実に保存管理するなど、それどころか監視を続けることさえ困難であることは想像に難くない。

こうしたものの他に冷戦時代から引き継がれているのが、管理操作方法と思考方法で、今でもそれから抜け出せないでいる。今日、冷戦終結後 10 年を経てもなお、何千という米国の核兵器とおそらくロシアの核兵器も同様に、常に臨戦態勢をとり続けているのだ。

事実、多くの米国とロシアのミサイルは今も洋上に向けて設置され、数分内に攻撃目標を変更できるようになっている。これは極めて危険な状況である。これら核兵器が解除されないままに事故が発生し、全世界を核ホロコーストに巻き込むというシナリオが出来上がってもさしたる不思議はない。しかし、それは決して避けられないものではないのだ。

1995 年 1 月 25 日ロシアの警戒レーダーは、ノルウェー海域からロケット弾が発射されたことを探知した。米国の原潜から発射されるトライデント・ミサイルほどの大きさのそれは、ものすごいスピードでモスクワに迫っているように見えた：衝突するまでわずか 15 分である。

レーダー担当官はモスクワの南にある管制センターへ警戒警報を送り、それがそのままエリツィン大統領の指令網へと中継された。警戒警報は攻撃に備え、全ロシアの軍事基地に鳴り渡った。迎撃開始のぎりぎりわずか 2、3 分前、上級将校がロケット弾は瞭かに洋上へ向けられたものであるとの判断を下した。それはロシア本土を狙ったものではなかったのだ。

このミサイルはどこから発射されたのだろうか？ 事実これは米国のロケット弾でノルウェーの島アン

ドーヤから発射されたもので、北極光研究用に開発された特殊ゾンドロケットであった。発射に先立ち、ノルウェー政府はロシア大使館に通知したが、どうした訳かメッセージはロシア軍の司令部へ届いていなかったのである。

1987年1月、インド軍はパキスタンのシンド州国境付近で大規模な軍事演習を行うための準備を進めていた。シンド州では多くの人々の間に分離論が高まっていたため、パキスタンはインド政府が攻撃を開始すると誤解し、陸軍を国境へと移動させた。これに気がつき、インド軍は援軍を送った。

1947年から3回の戦争を闘ってきた両国は、1万人の軍隊を国境へ集結させ、臨戦態勢に入った。幸いにして、熱心な外交努力が混乱を收拾し、危機は免れた。

インドとパキスタンは、互いの誤解からまさに一触即発の危機に面していたのだ。

今日の両国をみると、かつて危ういところで偶然の惨劇を引き起すところだった緊張関係に、改善は見られない。今現在、両国は核兵器で武装している。

私達は冷戦時代の極めて有害で、致命的な負の遺産から自らを解き放つ道を探し出さねばならない。現在世界の海底に散らばっているすべての核兵器と原子炉が、無期限の安定を維持し、生態環境に害を及ぼさないなどは決して考えることはできないのだ。

現状からの回復策や放射性物質の取り扱い、またしかるべき地中に永久的に埋めるなど取るべき道の可能性を探り、その望ましい形を求めて慎重な研究がなされなければならない。

これはグローバルな問題であり、こうした研究成果は公表されるべきものであると同時に、国際社会の中で広く論議を尽くしていくべきものである。そして、最良のアプローチへの決断がなされた時点で、国家がもっとも有効に実施できるものがなんであれ、それに向かって協調、協力、時宜を得た努力が結集されなければならない。

世界各地に広がるプルトニウムと濃縮ウランの貯蔵については、核兵器に転換しにくい形状で慎重に保管され、監視、警護されるものであると、私たちは強固な認識をもつ必要がある。さらに、核廃棄物を

最も安全に取り扱い保管するために、技術の改良を重ね、開発により一層努力していかなければならない。現在、この種の調査への資金提供は、私たちの現在と未来の安寧に対して核廃棄物が投げかける問題の重大さに比べれば、ほんの僅かなものにすぎない。

今すぐ遅きに失することなく、すべての核保有国は核兵器庫の警戒態勢を解除するべきである。このことを、今までどんな論理で実行されずにいたのか不思議なくらいだ。しかし、今こそ大きく前へ踏み出さなくてはならない。保有核兵器を削減するだけでなく、核を地球から無くしてしまう位の運動を構築するときなのである。1990年代の半ば、ジョージ・リー・バトラー将軍（1991-1994：合衆国戦略司令部の総司令官）、チャールズ・ホーナー将軍、北米航空防衛長官は、核兵器は廃絶できる、また廃絶されるべきであるとの考えを公けに発言している。

1996年、そのほかにも米国、ロシア、イギリス、フランス、中国の退役した各国の将軍や提督、50人以上がこの理念を支持して国連での声明に署名した。冷戦時代はとうの昔に終結している。その負の遺産を、今こそ永久に葬るためにできるかぎり尽くすときである。少しでもやり残せば、地球規模の大惨事を招くことになる。

ロイド・デュマは「リーサル・アロガンズ (Lethal Arrogance)」：「Human Fallibility and Dangerous Technologies (セイント・マーティンズ・プレス、ニューヨーク、1999) の著者。1994-1996 ロスアラモス国立研究所で核燃料物質の転換に関するコンサルタント、現在テキサス大学 (ダラス) 政治経済教授

原潜トライデント；クライド湾で座礁する

11月末、クライド湾の入江付近で原子力潜水艦トライデント、英国軍艦ビクトリアスが砂洲に乗り上げた。原潜は悪天候の中、浮上して航行していたようである。スケルモーリー浅瀬に乗り上げ、砂と泥に突っ込んだ艦船はその後、ファスレーンへ帰還し再び洋上へ。国防省は事故の発生を認め、船体への影響はほとんどなかったと述べている。

同様の事故が2週間足らずのうちに起きている。2000年11月19日、対潜原子力潜水艦 HMS トラ

イアンフが、スコットランド西海岸海底の浅瀬で座礁したのだ。

「このようなトライデント原子力潜水艦はスコットランドの人々を危険にさらしている。この事件は核事故のなかでも、とりわけ深刻な事故になりかねなかった。潜水艦は船体を海底に打つほどの浅瀬を航行するべきではなかった」

参考文献と謝辞

10.2.1 数字と図表による検証

このセクションはレイチェル・ボイドとダビデ・ヒギンによって執筆された。

10.2.2 政治家に送るサンプルレター

レイチェル・ボイド構成

さらに理解を深めるために

「From Nuclear Deterrence to Nuclear Abolition
(核抑止から核廃絶へ)」

リー・バトラー将軍の演説 (於：ワシントン、ナシ

ョナルプレスクラブ、1996年12月4

日) 全文は私たちのウェブサイトからアクセスで
きます。是非一読してください。

トライデント・プラウシェアー誓約者リスト

リバー	River	イギリス	コリン・ゴールドブラット	Colin Goldblatt	イギリス
マーク・アッカーマン	Mark Akkerman	オランダ	アンドリュース・グレイ	Andrew Gray	イギリス
ジャスティン・アレグザンダー	Justin Alexander	イギリス	アリスン・	Alison Greenhalgh	イギリス
ステイブン・オルクロフト	Stephen Allcroft	イギリス	グリーンハーフトソン	Watson	
キャスリン・アモス	Kathryn Amos	イギリス	ハンナ・グリフィン	Hannah Griffin	イギリス
エマ・アップルトン	Emma Appleton	イギリス	サラ・グロサー	Sara Groser	イギリス
マーカス・アームストロング	Marcus Armstrong	イギリス	ダーク・グラッツマツチャー	Dirk Grutzmacher	オーストラリア
ジョン・ベーカー	John Baker	アイルランド	ギョウセイ・ハンダ	Gyosei Handa	日本
モラグ・バルファー	Morag Balfour	スコットランド	アンソニー (ティーポット)	Anthony (Teapot)	スコットランド
ガイナー・バレット	Gaynor Barrett	イギリス	・ハニガン	Hanningan	
エミリア・ベンジャミン	Emilia Benhamin	イギリス	ヘレン・ハリス	Helen Harris	イギリス
ジョアンナ・バーキング	Johanna Berking	イギリス	トレイシー・ハート	Tracy Hart	イギリス
ダンカン・ブリンクホーン	Duncan Blinkhorn	イギリス	デビット・ヘラー	David Heller	イギリス
ヘーゼル・ブローア	Hazel Bloor	イギリス	ダビダ・ヒギン	Dauida Higgin	イギリス
アンナ・ボール	Anna Boll	オランダ	ダガルド・ハイン	Dougald Hine	イギリス
アマンダ・ブース	Amanda Booth	イギリス	ロバート・ハウス	Robert House	スコットランド
レイチェル・ボイド	Rachel Boyd	イギリス	マイク・ハッチンソン	Mike Hutchinson	イギリス
シルビア・ボイズ	Sylvia Boyes	イギリス	フレデリック・アイバーソン	Fredrik Ivarsson	スウェーデン
ベティ・ブラウン	Betty Brown	イギリス	ロージー・ジェイムス	Rosie James	イギリス
リズ・ブラウン	Liz Brown	イギリス	ルイーザ・ジェイムス	Louise James	アイルランド
ロズ・バレン	Roz Bullen	スコットランド	ハンナ・ジャービネン	Hanna Jarvinen	ベルギー
ステュアート・バーブリッジ	Stuart Burbridge	イギリス	シド・ジェフリーズ	Sid Jefferies	ウェールズ
ジャネット・キャメロン	Janet Cameron	スコットランド	ピーター・ジョエルソン	Petter Joelson	スウェーデン
ウナ・キャンベル	Una Campbell	スコットランド	ヘレン・ジョン	Helen John	イギリス
ウォーレン・デービット・ キャンナム	Warren David Canham	スコットランド	テリー・ジョンソン	Terry Johnson	イギリス
ケイ・カーマイケル	Kay Carmichael	スコットランド	マーガレット・ジョーンズ	Margaret Jones	イギリス
ヴィヴ・カルネア	Viv Carnea	イギリス	シアン・ジョーンズ	Sian Jones	イギリス
マルティナ・カルソー	Martine Caruso	イギリス	タルナ・カニスト	Tarna Kannisto	フィンランド
マギー・チャーンレー	Maggie Charnley	イギリス	メリー・ケリー	Mary Kelly	アイルランド
アンナ・コールドハム	Anna Coldham	スコットランド	マーティン・ケリー	Martyn Kelly	アイルランド
ヴァネッサ・コープ	Vanessa Cope	イギリス	ポール・アンドリュース・ケリー	Paul Andrew Kelly	スコットランド
マックスウェル・クレイグ	Maxwell Craig	スコットランド	ジュタ・キル	Jutta Kill	ドイツ
アリソン・クレネ	Alison Crane	イギリス	ガネッシュ・ブルース・ キングス	Ganesh Bruce Kings	イギリス
キャット・クロン	Cat Crone	イギリス	キャロル・(ケズ)・カービー	Carol (Kez) Kirby	イギリス
エミリー・クロスビー	Emily Crosby	イギリス	リーロン・コレン	Leeron Koren	イスラエル
マリリン・クロサー	Marilyn Croser	スコットランド	アンドレア・クーンケ	Andrea Kuhnke	ドイツ
サラ・カニングハム	Sarah Cunningham	イギリス	ハンス・ラメラント	Hans Lammmerant	ベルギー
ポール・デュイベッテル	Pol D Huyvetter	ベルギー	ピーター・ラニオン	Peter Lanyon	イギリス
スーザン・デービス	Susan Davis	イギリス	サラ・レズンビー	Sarah Lasenby	イギリス
バーナード・デ・ヴィット	Bernard De Witte	ベルギー	マーク・リーチ	Mark Leach	スコットランド
スチュワート・デニス	Stuart Dennis	イギリス	マーティン・リー	Martin Lee	イギリス
ポール・ドルマン	Paul Dolman	イギリス	アネット・リー・フォレスト	Annette Lee-Forester	イギリス
モグウル・クレブ・ ドラゴンライダー	Mog-Ur Krebs Dragonrider	スコットランド	クリステル・レツェルト	Kristel Letschert	オランダ
ヒュー・ドラモンド	Hugh Drummond	スコットランド	リチャード・ルイス	Richard Lewis	イギリス
ローランド・ダイ	Rowland Dye	イギリス	アニヤ・ライト	Anja Light	オーストラリア
クラウス・エンゲル	Klaus Engel	スウェーデン	ジェンス・ライト	Jens Light	オーストラリア
キーリー・モーリス	Keeley Morris	イギリス	アン・リビングストーン	Anne Livingstone	スコットランド
ルー・エリス	Roo Eris	イギリス	アンジェラ・ラブブリッジ	Angela Loveridge	ウェールズ
ジョージ・フェアブラザー	George Farebrother	イギリス	デビー・メース	Debbie Mace	イギリス
クレア・ファーンレー	Claire Fearnley	イギリス	バブズ・マクレガー	Babs Macgregor	スコットランド
マルグリット・フィン	Marguerite Finn	イギリス	ティガー・マクレガー	Tigger Macgregor	イギリス
イオナ・フィッシャー	Iona Fisher	スコットランド	シーラ・マッケイ	Sheila Mackey	スコットランド
ロジャー・フランクリン	Roger Franklin	イギリス	デビット・マッケンジー	David Mackenzie	スコットランド
クライブ・ファッジ	Clive Fudge	イギリス	ジャシント・マニング	Jacinta Manning	イギリス
ジェニー・ガイアウィン	Jenny Gaiawyn	イギリス	ヨシエ・マルテ	Yoshie Marute	日本
ミラ・ガレット	Myra Garrett	イギリス	バーバラ・メイバー	Barbara Maver	スコットランド
カースティ・ギャザーグッド	Kirsty Gathergood	イギリス	アイオン・マッカーシー	Eion Mccarthy	スコットランド
マーサ・ゴダード	Marta Goddard	イギリス	ジェームズ・マクラ克蘭	James Mclanchlan	スコットランド
			キャス・マクナルティ	Kath McNulty	ウェールズ

ケイト・マクナット	Kate Mcnutt	イングランド	リック・スプリングー	Rick Springer	アメリカ
ジョアン・メレディス	Joan Meredith	イングランド	ロバート・ピーター・スプロケット	Robert Peter Sprocket	イングランド
ジョアン・ミラー	Joan Miller	スコットランド	ヘレン・ステイーブン	Helen Steven	スコットランド
ジョイ・ミッチェル	Joy Mitchell	イングランド	エレノア・ストボ	Eleanor Stobo	スコットランド
コーエン・モエンズ	Koen Moens	ベルギー	バーバラ・メアリー・サンダーランド	Barbara Mary Sunderland	イングランド
ジャネット・モアール	Janet Moir	イングランド	ロバーン・サンドストロム	Robban Sundstrom	スウェーデン
エレン・モクスレー	Ellen Moxley	スコットランド	ジェーン・タレント	Jane Tallents	スコットランド
ジョン・マイヒル	John Myhill	イングランド	アラン・ソントン	Alan Thornton	イングランド
マーティン・ニューウェル	Martin Newell	イングランド	アンナ・ツオミネン	Anna Tuominen	フィンランド
グレース・ニコル	Grace Nicol	スコットランド	デビッド・ターナー	Daved Turner	スコットランド
ビル・ノース	Bill North	イングランド	アストリッド・ウバス	Astrid Ubas	オランダ
アレン・オキーフ	Allen O'Keefe	イングランド	ウェンディ・ヴェール	Wendy Vale	イングランド
ユーコ・オハラ	Yuko Ohara	日本	スーザン・ファンダー・ハイデン	Susan Van Der Hyden	オランダ
ジョン・オリバー	Jean Oliver	スコットランド	イスカデル・ヴァン・スベンゲン	Iskander Van Spengen	スコットランド
イグゲ・オルソン	Igge Olsson	スウェーデン	クリスタ・ファン・フェルゼン	Krista Van Velzen	オランダ
タラ・アン・プラムレー	Tara Ann Plumley	イングランド	エリック・ウォーレス	Eric Wallace	スコットランド
フランシス・ジュディス・ブリチャード	Frances Judith Pritchard	イングランド	アグネス・ウォルトン	Agnes Walton	スコットランド
ブライアン・クエール	Brian Quail	スコットランド	ストークリー・ウェブスター	Stokely Webster	ウェールズ
ヘーゼル・レニー	Hazel Rennie	イングランド	ゾエ・ウェイル	Zoe Weir	スコットランド
イアン・リチャードソン	Jan Richardson	スコットランド	レイチェル・ウェナム	Rachal Wenham	イングランド
ナターシャ・ジェーン・リッチー	Natasha Jane Ritchie	スコットランド	ルイズ・ワイルダー	Souise Wilder	イングランド
イアン・ロバーツ	Ian Roberts	スコットランド	マリーコレット・ウィルキー	Maire-Colette Wilkie	スコットランド
ウラ・ローダー	Ulla Rodder	デンマーク	アラン・ウィルキー	Alan Wilkie	スコットランド
コーエン・ロッゲン	Koen Roggen	ベルギー	マルジャン・ウィレムセン	Marjan Willemsen	オランダ
デイブ・ロルストーン	Dave Rolstone	イングランド	エリカ・ウィルソン	Erica Wilson	イングランド
アン・ショルツ	Anne Scholz	ドイツ	ベン・ウィンコット	Ben Wincott	スコットランド
エイミー・スコット	Amy Scott	イングランド	ラガ・ウッズ	Raga Woods	イングランド
ノーマン・シャンクス	Norman Shanks	スコットランド	マーリーン・ヨー	Marlene Yeo	イングランド
ダグラス・ショー	Douglas Shaw	スコットランド	ベック・ヤング	Becqke Young	イングランド
カトリ・シルボネン	Katri Silvonen	ベルギー	アンジー・ゼルター	Angie Zelter	イングランド
ルー・スミス	Lou Smoith	イングランド			

15ヶ国 175人

トライデント・プラウシェアズ ハンドブック 日本語訳第1版

印刷・発行 2004年11月

発行者 ゴイル湖の平和運動家を支援する会 (<http://www003.upp.so-net.ne.jp/maytime/goilsupt.html>)
アンジー・ゼルターさんを迎える東京集会実行委員会

翻訳：東京YWCA国際語学ボランティアグループ

浅原由美 宇田川洋子 小野地真澄 加藤美恵子 呉みどり 小西美奈子
小林美保 芝田貞子 嶋田秀充 鈴木みき 高橋りえ子 寺本孝子
中野典子 則武加代子 二井佐代子 横山雅代

編集：豊島耕一（ゴイル湖の平和運動家を支援する会，佐賀大学）

問い合わせ先：

豊島耕一：〒840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学工学部 TEL：0952-28-8845 toyo@cc.saga-u.ac.jp

日本YWCA：〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8 TEL：03-3264-0661

日本反核法律家協会：〒160-0004 東京都新宿区四谷1-2 伊藤ビル2F TEL：03-3341-1417

日本キリスト教協議会(NCC)：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-24 TEL：03-3203-0372

ふえみん婦人民主クラブ：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-18-301 TEL：03-3402-3238